

ITコーディネータ (ITC) カリキュラム作成ガイドライン (版)

このガイドラインは、
正式版公開前の 版
であるため、今後、内
容について変更する
可能性があります。

2000年10月2日
ITコーディネータ検討グループ

目次

本ガイドラインの位置づけ.....	1
0.0 全体概要.....	5
0.1 プロジェクトマネジメント.....	9
0.2 コミュニケーション.....	12
0.3 活動・成果のモニタリング/コントロール.....	17
. 経営戦略策定フェーズ.....	22
. 戦略情報化企画フェーズ.....	40
. 情報化資源調達フェーズ.....	58
. 情報システム開発・テスト・導入フェーズ.....	75
. 運用サービス・デリバリーフェーズ.....	83
参考文献.....	91
ITC を目指す人に必要とされる経営・IT に関する前提知識レベル.....	92

本ガイドラインの位置づけ

■ カリキュラム作成ガイドラインとは

- ・ 教育機関及び教材開発会社等が、IT コーディネータ（以下：ITC）を養成するためのカリキュラムを開発する際の指針を示したものです。
- ・ 教育機関及び教材開発会社等の開発したカリキュラム、テキスト、コースウェア等の認定は、カリキュラム作成ガイドラインに必要とされた項目が記述されていることを別途定める手続きにより確認することで認定します。
- ・ カリキュラム作成ガイドラインは、必要に応じて随時改定する予定です。
- ・ ITC 養成のために必要とする知識体系を下記図に示します。当ガイドラインは、ITC の専門知識を養成するためのものです。当専門知識の研修を受けるためには、別途示す前提知識を習得していることを前提としています。

	経営戦略策定フェーズ	戦略情報化企画フェーズ	情報化資源調達フェーズ	情報システム開発・テスト・導入フェーズ	運用サービス・デリバリーフェーズ
総合研修科目	ケーススタディ	ケーススタディ	ケーススタディ	ケーススタディ	ケーススタディ
専門知識	0.0 全体概要				
	0.1 プロジェクトマネジメント				
	0.2 コミュニケーション				
	0.3 活動・成果のモニタリング/コントロール				
	.1.1 全体概要と基本原則	.1.1 全体概要と基本原則	.1.1 全体概要と基本原則	.1.1 全体概要と基本原則	.1.1 全体概要と基本原則
	.1.2 経営の成熟度	.1.2 情報システムの成熟度	.1.2 情報化資源調達の成熟度	.1.2 情報システム開発・テスト・導入の成熟度	.1.2 情報システム運用の成熟度
	***	***	***	***	***
***	***	***	***	***	
***	***	***	***	***	
前提知識					

■ 本書の構成

当カリキュラム作成ガイドラインは下記の構成になっています。

・ 共通カリキュラム

ITC に関わるすべてのフェーズにおいて、共通に必要な知識、スキルを学ぶカリキュラム

- 全体概要 1 単元
- プロジェクトマネジメント 2 単元
- コミュニケーション 4 単元
- モニタリング・コントロール 2 単元

・ 個別フェーズカリキュラム

それぞれの個別フェーズで必要な知識、スキルを学ぶカリキュラム

- 経営戦略策定フェーズ 10 単元
- 戦略情報化企画フェーズ 10 単元
- 情報化資源調達フェーズ 10 単元
- 情報システム開発・テスト・導入フェーズ 5 単元
- 運用サービスデリバリーフェーズ 5 単元

・ 個別フェーズカリキュラムの単元区分

個別フェーズカリキュラムの各単元は、3つの区分に分類されます。

- 原則
遵守すべき基本原則と、成熟度について必要な知識、スキルを学ぶ。
- アプローチ
活動の基本となるプロセスについて必要な知識、スキルを学ぶ。
- リファレンスモデル
活動の際に参照するリファレンスモデルの使い方について必要な知識、スキルを学ぶ。

注)ここで言う単元とは、カリキュラム作成ガイドラインの区分であり、カリキュラムの単位とは異なります。具体的には、カリキュラム作成ガイドラインの複数単元で1個のカリキュラムを作成する場合もあり得ます。

■ 項目の説明

当カリキュラム作成ガイドラインの各項目は下記のことを意味しています。

- ・ 対象スキル、知識
 - ITC として必要となる知識およびスキル
- ・ 学習達成項目
 - 学ぶ知識、習得するスキル
 - 学習後に何ができるようになっているかを明示
- ・ KPI (Key Performance Indicator) 項目
 - 学んだ知識、スキルの習得をはかる尺度
 - 学習目標が達成できたことを具体的に確認する指標
 - 学習達成項目の内、測定可能な重点評価項目
- ・ 教授指針
 - 前提知識
 - ◇ 当該カリキュラムで学ぶ際に、受講者が前提として有していることが望ましい知識
 - ◇ 個別フェーズの学習では、その前段のフェーズ（例えば、
情報化資源調達フェーズでは、上位フェーズの
経営戦略策定フェーズ、
戦略情報化企画フェーズ）で学んだ知識を前提とします。
 - 教授展開
 - ◇ 学習達成項目のために必要な指導プロセス
 - ◇ 前提知識を使った教え方
- ・ 学習形式、学習教材、ツール、メディア
 - 学習に必要な、ツール、学習形式、教材
- ・ 達成目標の評価基準
 - 達成したレベルを判断する基準（複数のK P Iのレベルで総合判断）
 - 今回は、未記入

2000年10月2日

ITコーディネータ検討グループ

ITコーディネータ 専門知識カリキュラム単元リスト

1. 共通カリキュラム

区分	0.0 全体概要	0.1 プロジェクト マネジメント	0.2 コミュニケーション	0.3 活動・成果の モニタリング/ コントロール
共通	0.0.0 全体概要	0.1.1 プロジェクト マネジメント プロセス	0.2.1 コミュニケーション プロセス	0.3.1 ビジネス活動・成果の モニタリング/ コントロール
		0.1.2 プロジェクト マネジメント知識	0.2.2 リレーション形成	0.3.2 IT活動・成果の モニタリング/ コントロール
			0.2.3 合意形成 (アグリーメント)	
			0.2.4 関係維持・調整	
	1	2	4	2

Total : 9

2. 個別フェーズカリキュラム

区分	. 経営戦略策定 フェーズ	. 戦略情報化企画 フェーズ	. 情報化資源調達 フェーズ	. 情報システム開発・ テスト・導入 フェーズ	. 運用サービス・ テラリバー フェーズ
1. 原則	.1.1 全体概要と 基本原則	.1.1 全体概要と 基本原則	.1.1 全体概要と 基本原則	.1.1 全体概要と 基本原則	.1.1 全体概要と 基本原則
	.1.2 経営の成熟度	.1.2 情報システムの 成熟度	.1.2 情報化資源調達の 成熟度	.1.2 情報システム 開発・テスト・導入 の成熟度	.1.2 情報システム 運用の成熟度
2. アプローチ	.2.1 事業環境分析と 事業改革テーマ 選定	.2.1 情報システム化 の方針確定	.2.1 調達の方向性 の明確化	.2.1 情報システム 開発・テスト・導入 の実施	.2.1 情報システム 運用の アプローチ
	.2.2 ビジネスモデル とオペレーション モデルの図式化	.2.2 現状のシステム の評価	.2.2 RFPの 作成と発行	.2.2 実行メソッド毎 のポイント	.2.2 業務改善 達成度
		.2.3 情報システムの 戦略計画	.2.3 調達先の決定	.2.3 業務改善定着と チェンジ マネジメント	
		.2.4 情報システムの 戦術計画			
3. リファレンスモデル	.3.1 組織マネジメント と経営者の役割	.3.1 目標情報モデル とモニタリング 情報モデル	.3.1 目標データ モデル		3.1 オペレーション レベルの コントロール要件
	.3.2 戦略の策定と 実行	.3.2 サプライチェーン 情報モデル	.3.2 モニタリング データモデル		
	.3.3 顧客との 関係強化	.3.3 知識情報モデル	.3.3 サプライチェーン データモデル		
	.3.4 サプライチェーン マネジメント	.3.4 経営資源 情報モデル	.3.4 知識データ モデル		
	.3.5 人材と組織能力 のマネジメント		.3.5 経営資源 データモデル		
	.3.6 事業成果の 把握と改善				
	10	10	10	5	5

Total : 40
GrandTotal : 49

0.0 全体概要

0.0.0 全体概要 共通

■ 対象スキル、知識

「ITCのプロセス全般の概要、ITC制度の概要に関する知識」

■ 学習達成項目

- ・ ITCの役割（ミッション）、提供するサービス、およびITCが遵守すべき倫理について学習する。
- ・ ITCプロセスガイドラインに示されるITCプロセス全体の流れについて学習する。
- ・ ITC能力要件およびカリキュラム全体およびITC資格制度について学習する

■ KPI項目

- ・ ITCのミッションと提供する価値を説明できる。
- ・ ITCプロセスガイドラインの全体フローを用いてITCのプロセスを説明できる。
- ・ ITC養成およびITC資格制度の概要を説明できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 本カリキュラムはITCカリキュラム全体のオリエンテーションであり、各カリキュラムガイドラインに示された「前提知識」を有していることが望まれる。

教授展開

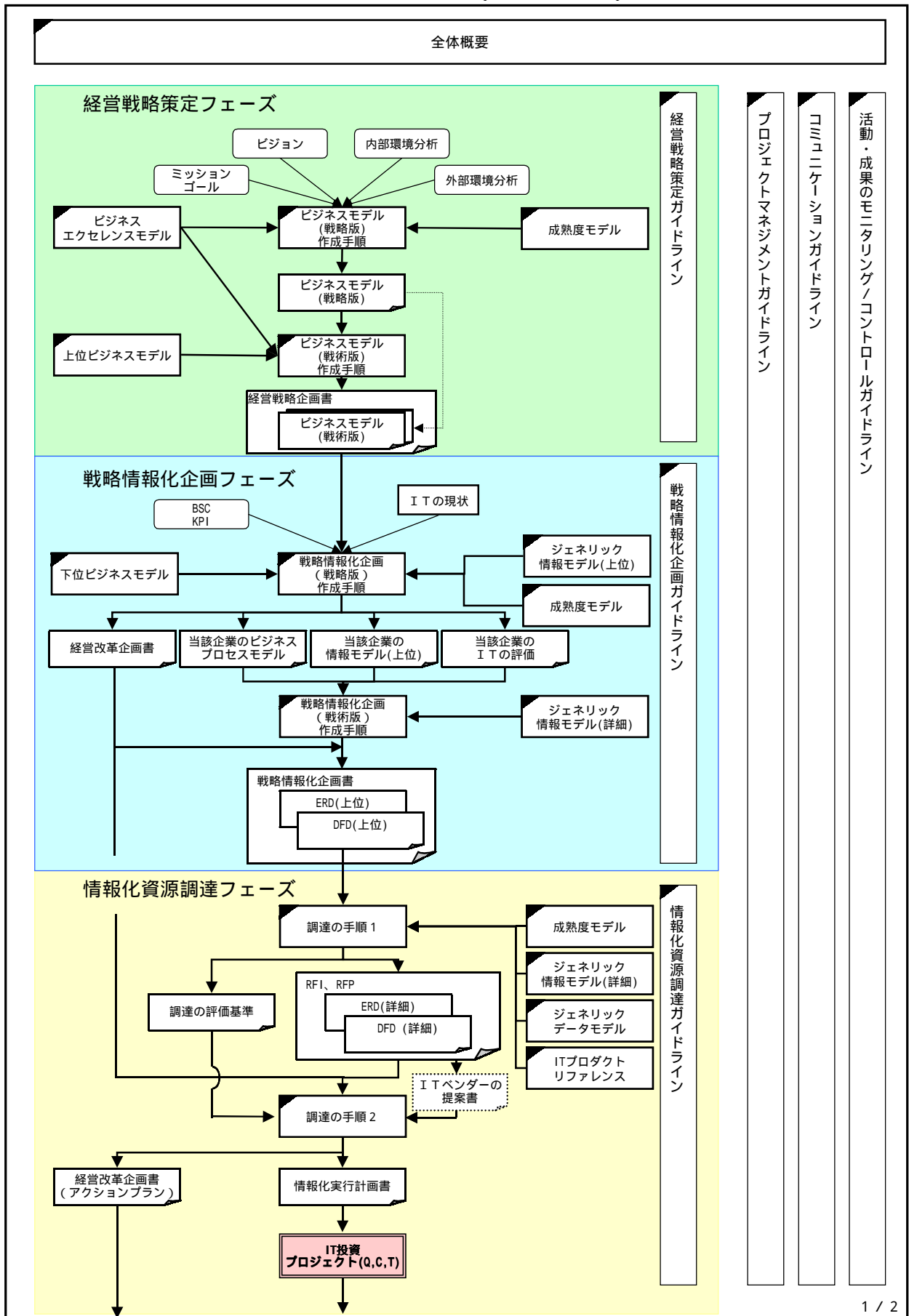
- ・ ITCカリキュラム全体のオリエンテーションおよび基本的知識をインストラクターがテキストを用いて説明する。

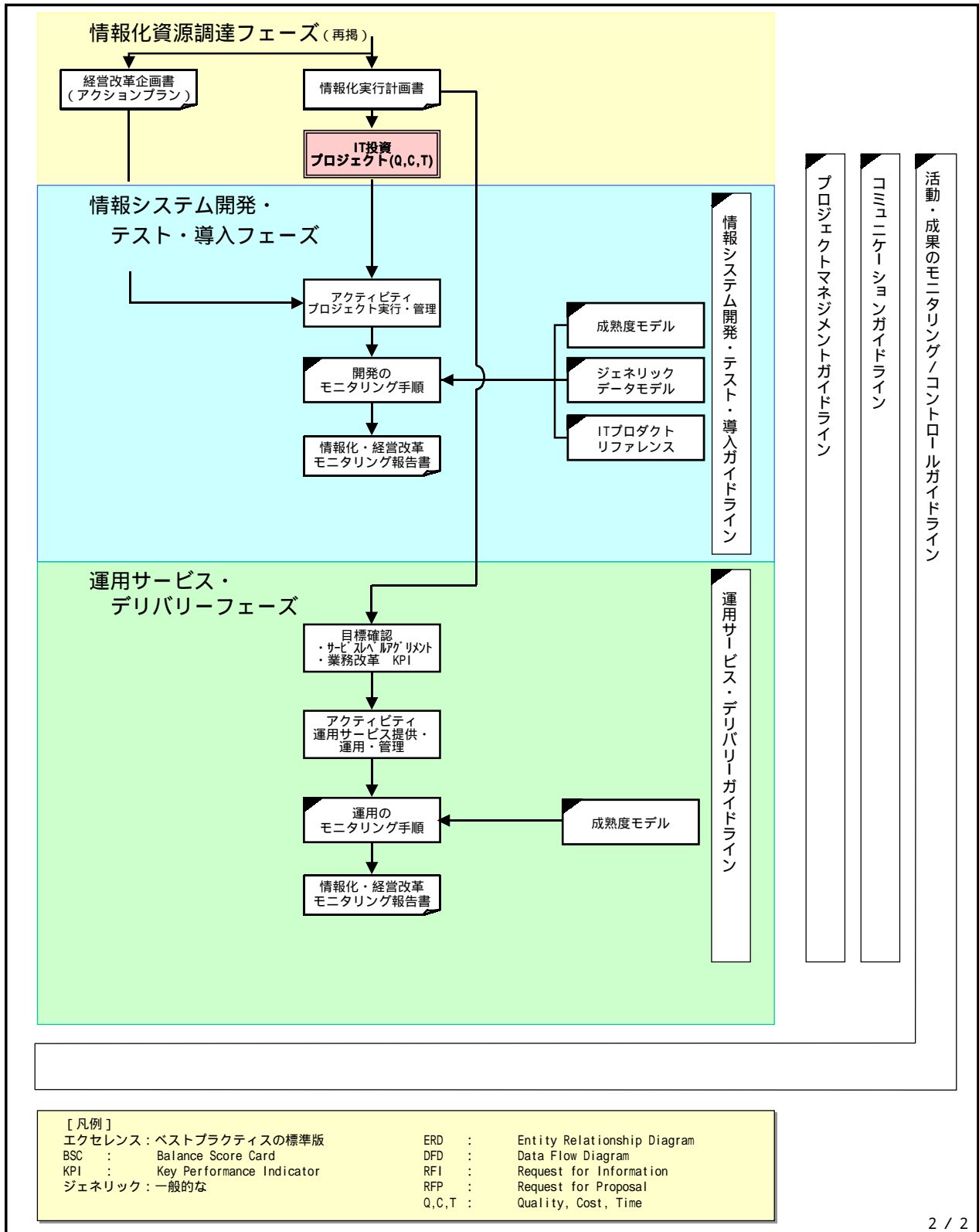
■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習

■ 達成目標の評価基準

ITコーディネータ プロセスガイドライン(全体フロー)





0.1 プロジェクトマネジメント

0.1.1 プロジェクトマネジメントプロセス 共通

■ 対象スキル、知識

「ITC プロセス全体および ITC プロセスの各フェーズをプロジェクトととらえ、それを実施する主要なプロセス（立上げ 企画 実施 コントロール 完了）をマネジメントする知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ ITC プロセスおよび ITC プロセス各フェーズをプロジェクトととらえ、そのプロジェクトを実施するための5つの主要プロセスについて学習する。
- ・ 5つの主要プロセスそれぞれに用いるプロジェクトマネジメント知識の概要を学習する。プロジェクトマネジメント知識の詳細は本カリキュラムの「ITC プロジェクトマネジメント知識」で学習する。
- ・ プロジェクトの範囲、規模、期間、コストに応じた5つのプロセスで考慮すべき点を学習する。

■ KPI 項目

- ・ 5つの主要プロセスに必要なプロジェクトマネジメントの知識要件を提示できる。
- ・ 5つの主要プロセスとモニタリングおよびコミュニケーションの関係を提示できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ プロジェクトマネジメントの概要に関する知識
- ・ プロセスのPDCAサイクルに関する知識

教授展開

- ・ 基本的知識をインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、事業の規模や目的を考慮し ITC プロジェクトの企画を作成する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「プロジェクトマネジメントプロセス」のケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

0.1.2 プロジェクトマネジメント知識 共通

■ 対象スキル、知識

「ITC プロセス全体および ITC プロセスの各フェーズのマネジメントに必要な知識」

■ 学習達成項目

- ・ ITC プロセスおよび ITC プロセスの各フェーズをプロジェクトととらえ、マネジメントを行うための 8 つの知識領域について学習する。
 - 8 つの知識領域については ITC プロセスガイドラインを参照。
- ・ 8 つの知識領域で用いるツールや技術として主要なものを学習する。
 - コミュニケーションマネジメントについては別カリキュラムで学習する。

■ KPI 項目

- ・ プロジェクトマネジメントの 8 知識領域の概要を説明できる。
- ・ プロジェクトマネジメントの 8 知識領域で用いる主要ツールを説明できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ スケジュール分析に関する知識（ガントチャート、PERT 図など）
- ・ コスト見積に関する知識
- ・ プロジェクト成果のばらつきを把握する分析に関する知識（管理図）
- ・ プロセスフローチャートに関する知識
- ・ 重点課題の分析に関する知識（パレート分析）
- ・ 組織メンバーの動機付けに関する知識
- ・ 意思決定に関する分析の知識（デシジョンツリー分析）

教授展開

- ・ 基本的知識をインストラクターがテキストを用いて説明する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習

■ 達成目標の評価基準

0.2 コミュニケーション

0.2.1 コミュニケーション・プロセス 共通

■ 対象スキル、知識

「プロジェクトの全体計画そのものをコミュニケーション・プロセスに置き換えることを学習する。」

- ・ コミュニケーション計画
- ・ リレーション形成
- ・ 合意形成
- ・ 関係の維持管理

■ 学習達成項目

- ・ コミュニケーションを目的達成のための段階プロセスとして、プロセス毎のコミュニケーション・テーマとして整理することを学習する。

■ KPI 項目

- ・ 初対面の相手との関係化ができる。
- ・ プロジェクト・プロセス毎のコミュニケーション・テーマが整理できる
- ・ プロジェクト・プロセスとは別に相手の理解・納得のレベルに応じてコミュニケーションの取リかたを柔軟に変更・修正できる

■ 教授指針

前提知識

- ・ 人間関係の作りかた
- ・ ベーシックなコミュニケーションスキル
- ・ 人間関係形成のプロセス
- ・ 積極的傾聴
- ・ 明確な表現方法

教授展開

- ・ 体験学習中心。実際のプロジェクト・プロセスに応じたコミュニケーション・プロセスの作成体験

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

■ 達成目標の評価基準

0.2.2 リレーション形成 共通

■ 対象スキル、知識

「プロジェクトとは社会システムであり、それは基本的なリレーションを形成せずには進行不可能である。基本的なリレーション形成に不可欠の自己理解～自己のコミュニケーション・スタイルへの気づき、自己開示～非防衛的、肯定的なオープンネス、信頼関係～小さな約束の積み重ね、知覚品質～ITC自身のクオリティなどを学習する。」

- ・ 自己理解
- ・ 自己開示
- ・ 信頼関係
- ・ 知覚品質

■ 学習達成項目

- ・ すべてのプロジェクト推進のベースとなる、依頼先との基本的人間関係形成のプロセス形成を学習する。
- ・ 個人能力を組織能力へと展開するための方法について学習する。
- ・ 基本的人間関係形プロセスの基礎となるストローク、拡張自我、時間の構造化について学習する。

■ KPI 項目

- ・ リレーション形成には理屈での"理解"ではなく、感受性による"気づき"が大切なことをわかっている。
- ・ 閉鎖的、防衛的な態度ではなく、協力的、肯定的な態度がとれる。
- ・ 透明性、公正性、約束遵守をできる。
- ・ 期待される自己の知覚品質を理解している。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 気づき (Awareness) の意味
- ・ マズローの自己実現
- ・ インターラクション
- ・ フェア・プロセス (手続き公正性)
- ・ 無形サービスの知覚品質

教授展開

- ・ 講義と演習。具体的事例による体験学習

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

■ 達成目標の評価基準

0.2.3 合意形成（アグリーメント）

■ 対象スキル、知識

合意形成は事前合意領域の明確化、非合意領域における管理可能要因・管理不能要因の整理、管理可能要因の解決アイデアの創出、管理不能要因の取り扱い決定というプロセスで行うことを学習する。

- ・ 問題の整理と解決スキル
- ・ コンセンサス・スキル

■ 学習達成項目

- ・ 依頼先のニーズ、理解度などに応じて、プロセスを一步一步的確に進める方法として、クライアント・センタード・カウンセリング、ダイアログ・ディシジョン・プロセス、社会システムの問題解決プロセスについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 問題の性質、本質の分析ができる
- ・ 相手の理解度、納得度に応じた説明ができる
- ・ 段階的に同意を確認してすすめることができる

■ 教授指針

前提知識

- ・ カウンセリング
- ・ ダイアログ・ディシジョン・プロセス
- ・ 問題解決技法

教授展開

- ・ 合意形成のダイナミズムを実感できるような体験学習が不可欠である。
- ・ 古典的なセールス・ステップや売り込みモデルは、関係形成を破壊する危険性があるので、絶対に避ける手法として提示する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

■ 達成目標の評価基準

0.2.4 関係維持・調整 共通

■ 対象スキル、知識

「形成された合意とその成果についての具体的で現実的なフィードバックを行うとともに、合意に至らず残された問題をプロジェクト・ステークホルダーと共同で解決しながら、関係を維持し、その強化を知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 良好な関係を維持しながら、プロジェクト・ステークホルダーのデジデュアル・バリュー（生涯価値）の観点から、残された問題を的確に解決していくことを学習する。
- ・ プロジェクトの成果をフィードバックするために ITC の各フェーズ評価しフィードバックする方法を学習する。
- ・ 継続的リレーション形成の方法を学習する。

■ KPI 項目

- ・ 依頼先、その他の関係者に具体的な評価フィードバックができる。
- ・ 残余の問題を明確化でき、誠意をもって解決する方法を提示できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ ナレッジマネジメントの学習交換（情報交換というよりも相互学習的な意味）に関する知識
- ・ 顧客洞察（顧客の言動、実状をなにか不足は、なにか不便は、なにか不満は、なにか不快はと問題意識をもって観察検討する）に関する知識
- ・ 顧客体験（顧客の置かれている状況に実際に入ってみて、実感値から問題をさぐる）に関する知識
- ・ 関係の促進要因（パフォーマンス）と維持要因（メンテナンス）とそれぞれの相互効果に関する知識
- ・ 動機付け理論に関する知識
- ・ リーダーシップに関する基本的知識
- ・ カウンセリングに関する基本知識（パーソン、プロブレム、プレイス（場）、プロセスの4P）
- ・ 状況適応理論と統合理論に関する知識
- ・ 調整（コーディネーション）能力に関する知識

教授展開

- ・ 関係維持・調整のプロセスと基本的知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ 関係維持・調整のダイナミズムを実感できるケースを用いて学習する。
- ・ 具体的な努力・能力の例を用いた評価フィードバックの仕方を体験学習させる。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

■ 達成目標の評価基準

0.3 活動・成果のモニタリング/コントロール

0.3.1 ビジネス活動・成果のモニタリング/コントロール

共通

■ 対象スキル、知識

「経営戦略からバランススコアカード/KGI におとしさらに、KPI としての目標設定を行い、ビジネスの目標達成のために実績データを収集して継続的または定期的な評価を実施し、対策を実施するモニタリングを理解し、的確なモニタリングが実施されるように指導する。」

■ 学習達成項目

- ・ ビジネスのモニタリングアプローチについて学習する。
- ・ 実績データの収集と継続的評価について学習する。
- ・ 定期的な評価と監査について学習する。

■ KPI 項目

- ・ ビジネスのモニタリングアプローチの目的と手法を理解し、これを実行する方法を指導できる。
- ・ バランススコアカード・KGI、KPI の作成ができる。
- ・ ビジネスのモニタリングの目標設定/確認を理解し指導できる。
- ・ 説明責任の明確化を理解し、指導できる。
- ・ 実績データの集積を理解し、指導できる。
- ・ 実績データの収集と目標との対比による評価の目的と手法を理解し、これを実行する方法を指導できる。
- ・ タイムリーな達成度の評価、例外点の捕捉を理解し、対応策の取り方を指導できる。
- ・ 定期的な評価と監査の目的と手法、組織と要員の確保調達・育成、範囲、計画の立案、手続、技法とツール、証拠・発見事項、報告、フォローアップを理解し指導できる。

■ 教授指針

○前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システム監査に関する知識
- ・ エンティティ、オブジェクトに関する基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 経営モニタリングの IT プロダクトに関する知識
- ・ 経営モニタリングの知識
 - 継続モニタリングの内容
 - 定期的モニタリングの内容

教授展開

- ・ 必要知識はテキストを用いて説明する。
- ・ 実際のプロジェクト事例を分析し、管理方法などについて理解を深める。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習 (Web ベースの知識教育でも可)

- ・ テキストに沿った講師によるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション
- 達成目標の評価基準

0.3.2 IT 活動・成果のモニタリング/コントロール 共通

■ 対象スキル、知識

「IT の企画・開発・運用段階の継続的又は定期的な評価と監査を実施するモニタリングを理解し、的確なモニタリングが実施されるように指導する。」

■ 学習達成項目

- ・ IT のモニタリングの基本原則について学習する。
- ・ IT のプロセスの目標設定、モニタリングについて学習する。
- ・ プロジェクトのコントロールについて学習する。
- ・ プロジェクトの完了モニタリングについて学習する。
- ・ IT のモニタリングについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 情報システムのモニタリング基本原則(整合性、範囲の適切性、期間の適切性、費用対効果、実現性、成果測定性、再評価性、周知性、説明責任、参画性)を理解し、これを実践する方法を指導できる。
- ・ IT プロセス (COBIT に示された 35 プロセス)の CSF, KGI, KPI を理解し設定できる。
- ・ また、これらのプロセスの KPI をモニタリングする方法を理解し指導できる
- ・ プロジェクトのプロセス(変更管理、スケジュール管理、コスト管理、品質管理、進捗報告、リスク管理)を理解しコントロールを実行できる。
- ・ 完了のプロセス(プロジェクト完了手続、契約の完了等)を理解し、モニタリングを実行する方法を指導できる。
- ・ IT のモニタリングの目的と手法を理解し、システム監査との関連を理解しこれを調整できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 経営モニタリングの知識
 - 継続モニタリングの内容
 - 定期的モニタリングの内容
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識 (情報処理技術者試験の出題範囲を参照)
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - システム監査に関する知識
- ・ プロジェクトマネジメントの概要に関する知識
- ・ プロセスの PDCA サイクルに関する知識

教授展開

- ・ 必要知識はテキストを用いて説明する。
- ・ 実際のプロジェクト事例を分析し、管理方法などについて理解を深める。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習 (Web ベースの知識教育でも可)

- ・ テキストに沿った講師によるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション
- 達成目標の評価基準

．経営戦略策定フェーズ

1.1 経営戦略策定フェーズの全体概要と基本原則 原則

■ 対象スキル、知識

「経営戦略策定の基本原則とビジネスモデル策定の主要ステップに関する知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 経営戦略を策定する際に遵守すべき基本原則について学習する。
- ・ 経営戦略を理解する上で新しい経営の考えかたとして、マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞のコア・バリューなどに示される基本的考えかたを学習する。
- ・ 顧客価値とコア・コンピタンスに着目した経営戦略策定のステップについて学習する。
- ・ ビジネスモデルとは何かを理解し、ビジネスモデルを表記するための方法について学習する。
- ・ 経営戦略における情報化の位置づけについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 経営戦略を策定する際に遵守すべき基本原則の理解している。
- ・ 経営戦略策定フェーズのアウトプットとして事業特性を考慮して適切な成功要因を定義できる。
- ・ 戦略による活動違いをビジネスモデルで図式化できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 顧客満足重視の経営に関する知識
- ・ 競争戦略（コスト優位・差別化・集中化）に関する知識
- ・ 組織マネジメントの原則としての組織構造と組織管理に関する知識
- ・ 人材育成と組織管理に関する知識
- ・ 経営における計画とコントロールに関する知識

教授展開

- ・ 経営戦略策定の目的、基本原則、策定のステップと使用するツール・方法論にインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いてビジネスの特徴を図式化しながら、ビジネスモデルに関する理解を深める。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ ビジネスモデルを図式化し特徴を把握するためのケース

■ 達成目標の評価基準

1.2 経営の成熟度

■ 対象スキル、知識

「経営戦略策定にあたって、当該企業の経営全体（企業ガバナンス）の成熟度を評価し、改善目標を設定するための知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営の成熟度モデルの考えかたを理解し、これを用いた現状の組織能力の診断と改善目標設定の考えかたについて学習する。
- ・ 組織の成熟度を評価する際に重要な視点と各成熟度レベルの特徴について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 経営の成熟度を判断し妥当な改善・改革目標を設定できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞のコア・バリューに関する知識
- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞のセルフ・アセスメントに関する知識

教授展開

- ・ 経営改善、改革と組織成熟度の考えかたをインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「成熟度」の判断を行い、目標設定を行う。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「経営の成熟度の考えかたと評価方法」のケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

2.1 事業環境と改善改革テーマ選定

■ 対象スキル、知識

「組織のビジョンを基に、内部・外部環境分析を行い、妥当な経営改善・改革テーマと目標を設定するスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 経営変革と戦略的情報化とビジョン・ミッション・事業ドメインを確認する適切なアプローチについて学習する。
- ・ 業界特性を分析する方法について学習し、それを実際に用いて事業に与える将来の環境変化を明らかにできるようにする。
- ・ バリューチェーンモデルを用いて、サプライチェーン全体での係わり合いから強み/弱みを明らかにする方法について学習する。
- ・ 5つの競争要因を用いた外部分析によって業界構造と将来の事業環境の動きを明らかにする方法について学習する。
- ・ SWOT分析を用いて、改善改革テーマを設定する方法について学習する。
- ・ 改善改革テーマ設定に際して、経営に関する「成熟度評価モデル」に照らして適切な目標設定を行う方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 経営におけるビジョン、ミッション、事業ドメインの考えかたを説明できる。
- ・ 事業特性を考慮し、内部・外部環境分析に用いる適切な情報を定義できる。
- ・ SWOT分析によって改善・改革のポイントを的確に抽出できる。
- ・ 保有するコア・コンピタンスを具体的に示すことができる。
- ・ 改善・改革テーマ選定で大きな効果をもたらすポイントを明示できる。
- ・ 経営の成熟度モデルに照らして適切な業務改善改革目標を設定できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 事業活動における内部環境と外部環境要件に関する知識
- ・ 競争戦略（コスト優位・差別化・集中化）に関する知識
- ・ シェアによる競争戦略の違いに関する知識
- ・ 経営コストに関する知識
- ・ 事業ポートフォリオに関する知識

教授展開

- ・ 基本的知識と分析方法についてはインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「主要な事業改善改革テーマとあるべき事業ドメイン」を導き出すステップを実践する。
- ・ 策定した事業改善・改革テーマを成熟度モデルに照らして適切かどうかについて、ケースを用いて実践する。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 「事業環境と改善改革テーマ選定」のケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

2.2 ビジネスモデルとオペレーションモデルの図式化

77 0-7

■ 対象スキル、知識

「事業改善改革として目指す事業の内容を主要な活動の組み合わせ（ビジネスモデル）で表現するための知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ SWOT分析によって導き出された新たな事業ドメインに基づき、組織の成熟度と照らし合わせて、適切な改善・改革テーマを選択するとともに、妥当な達成目標を設定する方法について学習する。
- ・ 改善・改革テーマの目標を実現するためのCSF=Critical Success Factor（最重要成功要因）を定義する方法について学習する。
- ・ 最重要成功要因間の関係を図式化し、整合性がある全体活動を適切なツールを活用し図式化する方法について学習する。図式化にあたってビジネスエクセレンスモデルを参照し活用できる。
- ・ 最重要成功要因に関連する重要な活動とマネジメント要件についてビジネスエクセレンスモデルを参照して具体的に示す方法について学習する。
- ・ 最重要成功要因に關係する活動のプロセスをAPQCのプロセスモデルを活用しながら具体的に示す方法について学習する。
- ・ 各活動をマネジメントするための主要なパフォーマンス指標を定義する方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 企業の成熟度レベルに相応しい改善目標を設定できる。
- ・ 改善テーマ実現のCSF（最重要成功要因）とCSFを実現する活動を具体的に定義できる。
- ・ 活動設定にあたって活動相互の一貫性を考慮したモデルを図式化できる。
- ・ 主要な活動を具体的なプロセスモデルとして図式化できる。
- ・ 適切な指標を定義できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ賞、日本経営品質賞のコア・バリューに関する知識。
- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ賞、日本経営品質賞に示される経営のフレームワークに関する知識
- ・ マーケティング・販売業務の管理に関する知識
- ・ 製造・付加価値付与業務の管理に関する知識
- ・ 調達、購入業務の管理に関する知識
- ・ CSF（最重要成功要因）とは何かに関する知識
- ・ BPRの概念および主要な事例に関する知識
- ・ プロセス・マッピングに関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、ビジネスモデルの図式化およびビジネスプロセスモデルの記述方法を理解す

る。

- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「ビジネスモデルとオペレーションモデル図式化」のケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

3.1 組織マネジメントと経営者の役割

■ 対象スキル、知識

「事業環境と改善テーマ選定や、ビジネスモデルの図式化のアプローチを行う際に参照するビジネスエクセレンスモデルの「組織マネジメントと経営者の役割」を理解し活用する知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 経営者に対して、経営変革の必要性と変革にあたって IT の戦略的活用の重要性を説明し、経営革新の動機付けを行う知識について学習する。
- ・ 変革のマネジメントと事業の方向性を明確にする方法について学習する。
- ・ 経営の上位概念としての組織マネジメントとリーダーシップの役割を理解する。
- ・ 経営目標を達成するための経営風土を効果的に醸成する方法について学習する。
- ・ 経営者が意思決定に用いるべき企業パフォーマンス指標とそれを用いたレビューについて学習する。
- ・ 社会、株主、地域社会や業界など関連団体に対する社会責任・企業倫理・説明責任のあり方と経営者の役割について学習する。
- ・ 成熟度モデルを用いて、現状の組織マネジメントとの課題と成熟度レベルを判断し、上位レベルへの目標設定を行う方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 経営者に変革にあたって IT の戦略的活用の有効性を明確に説明できる。
- ・ 変革をリードする際の経営者の役割を説明できる。
- ・ 経営者が意思決定に用いるパフォーマンス指標を明確にできる。
- ・ 事業特性を考慮し社会、株主、地域社会、業界との関係で重要な要件を定義できる。
- ・ 組織マネジメントと経営者の役割に関する知識をベースとして、経営の成熟度のレベルを判断できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ ビジヨナリー経営に関する知識
- ・ マッキンゼーの 7S 組織分析に関する知識
- ・ コーポレート・ガバナンスに関する知識
- ・ 環境マネジメント（ISO14000）に関する知識
- ・ IR（インベスターズ・リレーション）に関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「組織マネジメントと経営者の役割」での課題抽出を行う。
- ・ ケースを用いての課題抽出にあたっては経営における成熟度モデルを活用する。
- ・ 課題とその背景をプレゼンテーションし、課題抽出とその説明・説得能力を高める。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「組織マネジメントと経営者の役割」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答

■ 達成目標の評価基準

.3.2 戦略の策定と実行

■ 対象スキル、知識

「事業環境と改善テーマ選定や、ビジネスモデルの図式化のアプローチを行う際に参照するビジネスエクセレンスモデルの「戦略の策定と実行」を理解し活用する知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 経営変革に不可欠な独自能力を生かした戦略策定の方法について学習する。
- ・ 戦略を策定するうえでの体制と策定のプロセスを理解でき、それを実践に生かすことについて学習する。
- ・ 戦略分析に必要な情報と分析の流れと競争優位の確保という視点から戦略におけるベンチマーキング活用の考えかたについて学習する。
- ・ 戦略目標の達成度を確認する指標をバランス・スコアカードの考えかたを用いて設定する方法について学習する。
- ・ 戦略に基づき、それを実現するための実行計画を立案し、確実に実行するためのマネジメント方法について学習する。
- ・ 戦略に示された内容を第一線で柔軟かつ迅速に実行するための創発と戦略のフォーメーションについて学習する。
- ・ 成熟度モデルを用いて、現状の戦略策定の課題と成熟度レベルを判断し、上位レベルへの目標設定が行える。

■ KPI 項目

- ・ 適切な事例を用いて独自の戦略を持つことの重要性を経営者に説明できる。
- ・ 事業特性に合わせて戦略分析のポイントを明示できる。
- ・ 事業特性を考慮し、戦略目標を評価するパフォーマンス指標を明示できる。
- ・ 事業特性を考慮し、創発と戦略フォーメーションを生み出す方法を明示できる。
- ・ 戦略目標を実行計画に展開しマネジメントする際のポイントが明示できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ 事業活動における内部環境と外部環境要因に関する知識。
- ・ 経営コストに関する知識
- ・ 事業ポートフォリオに関する知識
- ・ ベンチマーキングの概要に関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「戦略の策定と実行」での課題抽出を行う。
- ・ ケースを用いての課題抽出にあたっては経営における成熟度モデルを活用する。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 「戦略の策定と実行」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答
- 達成目標の評価基準

.3.3 顧客との関係強化

■ 対象スキル、知識

「事業環境と改善テーマ選定やビジネスモデルの図式化のアプローチを行う際に参照するビジネスエクセレンスモデルの「顧客との関係強化」を理解し活用する知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 経営品質の観点からターゲットするの戦略的選択と顧客との関係強化が企業収益の向上をもたらすことの原則について学習する。
- ・ 顧客関係強化のため CRM などの手法とその適用方法について学習する。
- ・ 顧客の声を体系的にまとめ、さらに洞察を加え、戦略や計画、プロセス改善について反映していく方法について学習する。
- ・ 顧客満足度を適切な方法を用いて把握し、その結果をもとに改善を行う方法について学習する。
- ・ 顧客関係の強化のために有効かつ効率的な IT ツール（SFA、データベースマーケティング、データマイニング、RFM 分析など）について学習する。
- ・ 成熟度モデルを用いて、現状の戦略策定の課題と成熟度レベルを判断し、上位レベルへの目標設定を行う方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 顧客特性、事業特性を考慮し適切な顧客・市場セグメンテーションを行える。
- ・ 顧客市場調査結果、苦情、顧客のダイレクトの声に関するデータをとりまとめ顧客のニーズを明らかに定義できる。
- ・ 顧客との関係を強化し、収益性を高めるために用いる IT ツールについて説明できる。
- ・ 顧客満足度結果からビジネス上の重要な課題とその原因を明らかにし、改善のポイントを明示できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ セグメンテーションに関する知識
- ・ 苦情クレーム対応に関する知識
- ・ 顧客満足度と顧客ロイヤリティに関する知識
- ・ 顧客シェアに関する知識
- ・ ワンツーワンマーケティングに関する知識
- ・ ブランドとブランド力の測定に関する知識
- ・ 市場調査技法の基礎的知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「顧客との関係強化」での課題抽出を行う。
- ・ ケースを用いての課題抽出にあたっては経営における成熟度モデルを活用する。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「顧客との関係強化」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答

■ 達成目標の評価基準

- ・ ケースを用いての課題抽出にあたっては経営における成熟度モデルを活用する。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。
- 学習形式、学習教材、ツール、メディア
 - ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 「サプライチェーンマネジメント」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答
- 達成目標の評価基準

3.5 人材と組織能力のマネジメント

■ 対象スキル、知識

「事業環境と改善テーマ選定やビジネスモデルの図式化のアプローチを行う際に参照するビジネスエクセレンスモデルの「人材と組織能力のマネジメント」を理解し活用する知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 「自律」を基本とした人材マネジメントの動向を踏まえた、組織の人材マネジメントの重要なポイントについて学習する。
- ・ 企業の人事管理制度（職能資格制度、賃金制度、人事考課制度、能力開発制度）の整備・運営に必要な要件と新たな動向について学習する。
- ・ 社員の声を把握し、その声に基づいた社員支援の環境づくりについて学習する。
- ・ 組織における人間関係の改善や動機付けの方法について学習する。
- ・ 組織を活性化し、業績の向上につながるナレッジマネジメントと学習プロセスについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 自律を基本とした人材マネジメントの特徴を明示できる。
- ・ 社員満足度調査結果データから問題点の抽出ができ、改善すべき重要な点を指摘できる。
- ・ 人間関係の改善や動機付けの知識をベースとして、問題解決策を提示できる。
- ・ 組織の活性化に必要な目標の設定、運用体制、評価・処遇、コミュニケーションの改善を図ることができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ 賃金制度に関する知識
- ・ 人事考課制度に関する知識
- ・ 能力開発制度に関する知識
- ・ 福利厚生に関する知識
- ・ 人間関係論、行動心理学、SL 理論、交流分析など人間関係のマネジメントに関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「人材と組織能力のマネジメント」での課題抽出を行う。
- ・ ケースを用いての課題抽出にあたっては経営における成熟度モデルを活用する。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「人材と組織能力のマネジメント」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答

■ 達成目標の評価基準

.3.6 事業成果の把握と改善

■ 対象スキル、知識

「事業環境と改善テーマ選定やビジネスモデルの図式化のアプローチを行う際に参照するビジネスエクセレンスモデルの「事業成果の把握と改善」を理解し活用する知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 財務指標の基本的分析が行え、そこからの課題を抽出する方法について学習する。
- ・ 管理会計の基本的考えかたを理解し、利益改善へと結びつける方法について学習する。
- ・ ABC（活動基準原価会計）の基本的考えかたを理解し、価値を生まないプロセス要素を明らかにする方法について学習する。
- ・ キャッシュフロー会計の基本的考え方を理解し、キャッシュフロー改善点を明らかにする方法について学習する。
- ・ バランス・スコアカードの基本を理解し、主要活動の成果指標から戦略達成上の課題を明らかにする方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 財務諸表から安全性、収益性、成長性分析を行い課題を明らかにできる。
- ・ 直接原価計算と損益岐点分析を行え、そこから経営上の課題を明らかにできる。
- ・ ABC（活動基準原価会計）のデータからプロセス上の課題を明らかにできる。
- ・ バランス・スコアカードの考えかたを用いて、使用している指標と戦略実行面の課題を明示できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ 基幹業務に関するキャッシュフロー（売掛、買掛）の管理業務に関する知識
- ・ 財務分析の基礎知識
- ・ バランスシート（BS）に関する知識
- ・ 損益計算書（PL）に関する知識
- ・ ROA、ROE、ROI に関する知識
- ・ EVA に関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「財務分析」を実施し、そこからの課題抽出を行う。
- ・ ケースを用いて、「費用構造分析」を実施し、そこからの課題抽出を行う。
- ・ ケースを用いて、「ABC」の活用と価値を生まないプロセス見出す。
- ・ ケースを用いての「キャッシュフロー」の考えかたとそこからの課題抽出を行う。
- ・ 課題が発見しやすいケースを作成する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）

- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 「人材と組織能力のネジメント」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答
- 達成目標の評価基準

．戦略情報化企画フェーズ

1.1 戦略情報化企画フェーズの全体概要と基本原則



■ 対象スキル、知識

「戦略情報化企画の重要性・目的、遵守すべき基本原則と策定ステップを理解する。」

「業務改善、チェンジマネジメントの目標を設定するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 戦略情報化企画の経営に対する重要性・目的、基本原則について学習する。
- ・ 戦略情報化企画フェーズの策定ステップについて学習する。
- ・ 業務改善、チェンジマネジメントの目標設定について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 戦略情報化企画フェーズにおいて、基本原則を適用できる。
- ・ 戦略情報化企画フェーズの策定ステップにより、戦略情報化企画の策定を進めることができる。
- ・ 業務改善、チェンジマネジメントの目標設定ができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ BPR、業務分析手法に関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ 戦略情報化企画の経営に対する重要性・目的、基本原則・策定ステップについて、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ 業務改善、チェンジマネジメントの目標設定について、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、業務改善、チェンジマネジメントの目標設定について実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習

■ 達成目標の評価基準

.1.2 情報システムの成熟度

■ 対象スキル、知識

「戦略情報化企画にあたって、当該企業の IT ガバナンスの成熟度を評価し、改善目標を設定するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 当該企業の IT ガバナンスを評価するための成熟度モデルについて学習する。
* COBIT (Control Objectives for Information and related Technology)
- ・ 評価した結果をもとに、改善目標の設定について学習する。
- ・ 成熟度のレベルを早急にあげるには企業文化の改革が必要であることを理解する。

■ KPI 項目

- ・ IT ガバナンスの成熟度を評価し、妥当な改善目標を設定できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システム監査に関する知識

教授展開

- ・ IT ガバナンスの成熟度モデルの基本と使い方を、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、成熟度モデルによる評価、改善目標の設定を実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ IT ガバナンスの成熟度の考え方と評価方法を理解するためのツール
- ・ プレゼンテーションと質疑応答形式の実践

■ 達成目標の評価基準

2.1 情報システム化の方針確定 77 0-7

■ 対象スキル、知識

「戦略情報化企画の範囲の設定、方法論 / 技法の確定と資源の準備、経営方針・関連要因の確認、IT 動向の把握、ニーズの概要を明確化し、情報システム化の方針を確定するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 組織の経営方針に従った、戦略情報化企画の範囲と期間の設定について学習する。
- ・ 企画作業を行うための方法論 / 技法の確定と資源の準備について学習する。
- ・ 組織の経営方針及び関連要因の確認について学習する。
- ・ IT 動向の把握方法について学習する。
- ・ 経営方針と IT 動向に基づいて、組織におけるニーズの概要の明確化について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 戦略情報化企画の範囲と期間を確定できる。
- ・ 実証済みの方法論、アプローチ及びスケジュールを確定できる。
- ・ 予備情報を収集するとともに、企画作業にあたるプロジェクトチームを編成できる。
- ・ 組織の経営方針及びそれが情報システムの利用に及ぼす影響について、競合状況を踏まえて明確に把握できる。
- ・ 情報化のもたらす効果と情報化の持つ潜在能力について把握することができる。
- ・ 概要データモデルとビジネスプロセス分析によって組織のニーズを明確にし、対応するアプリケーション分野を確定できる。また、サービスレベル要件についても確定できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ 分析手法と分析のステップの基礎知識は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、分析手法の使い方を実践する。
- ・ ケースを用いて、組織の方針及びそれが情報システム利用に及ぼす影響について、競合状況を踏まえて明確に把握することを実践する。
- ・ 具体的方法（WEB、メールマガジン等）により、IT 動向についての知見の深め方を理解する。
- ・ ケースを用いて、概要データモデルとビジネスプロセス分析による組織ニーズの把握の仕方と、対応するアプリケーション分野の確定を実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習

- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

.2.2 現状のシステムの評価

■ 対象スキル、知識

「現行情報システムの利用状況を調査のうえ文書化し、これまでのステップで収集した情報も加えて分析し、ベースラインを設定するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 業務及び意思決定を支援する現行の情報の流れの調査と文書化方法について学習する。
- ・ 現行アプリケーション、他情報システムとのインタフェース、現行情報システムの実態調査と文書化方法について学習する。
- ・ 将来のニーズ、情報システムの導入による効果及び組織が望むものと必要とするものとのギャップ評価について学習する。
- ・ 現行情報システムの各主要分野を成熟度モデルに照らして評価することにより、機能、可用性、サービスデリバリの面で著しい不備がある又は明らかにユーザーの不満がある分野の特定に仕方について学習する。
- ・ 戦略情報化企画策定の際に、考慮すべき主要事項のとりまとめについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 情報の流れ、現行アプリケーション、他システムとのインタフェースを文書化できる。
- ・ 組織が必要とする情報システムと現行情報システムを比較して主なギャップを把握できる。
- ・ 現行情報システムの各主要分野を成熟度モデルに照らして評価し、情報システムの著しい不備、ユーザーの不満を特定できる。
- ・ 主要情報システムの新規導入あるいは現行情報システムの大幅な改善が求められる経営分野又は実務分野を明らかにできる。
- ・ 戦略策定にあたり考慮すべき主要事項を定義できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識については、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、現行の情報システム利用実態の調査、文書化を実践する。
- ・ ケースを用いて、現在及び将来の経営上のニーズ、情報システムの導入により得られる効果及び、組織が望むものと必要とするものとのギャップを十分に評価するとともに、戦略情報化企画策定の際、考慮すべき主要事項を評価資料として取りまとめることを実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

.2.3 情報システムの戦略計画

■ 対象スキル、知識

「組織の目標に沿った戦略情報化面のビジョンを確立し、代替案を分析・選定し、戦略計画として取りまとめるとともに、その計画の正当性をあらゆる面から裏付け、統合企画フレームワークを立案するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 戦略情報化面の主要成功要因及びそれに関連した経営上/IT 上の前提条件の決定、戦略を策定する際の重点分野の特定、それら主要成功要因と重点分野の両方を踏まえた、計画に対する現実的なビジョンとそれを支える目標の立案について学習する。
- ・ 代替案の相互依存関係を考慮しつつ、必要とされる情報、アプリケーション、テクノロジー基盤、コミュニケーション機能、組織内資源を対象範囲に含めた、組織のニーズを満たす代替案の分析について学習する。
- ・ すべての代替案を特定し、その中から戦略的にもっとも有効な代替案の選定について学習する。
- ・ 戦略選定の正当性の理由づけ、個々の戦略を統合し、情報、アプリケーション、テクノロジー基盤及び組織展望を含めた全体戦略を経営目標に沿った形で作り上げるための統合企画フレームワークの立案について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 主要成功要因と重点分野の両方を踏まえて、計画に対する現実的なビジョンとそれを支える目標を立てることができる。
- ・ 組織の情報/データニーズを評価し満たすための各種モデルを作成し、組織の経営分野毎の情報ニーズを満たすためのアプリケーション関連アプローチの代替案を明確にできる。
- ・ 選択したアプリケーションに適合し、組織の必要とするサービスレベルを達成できるテクノロジー基盤を実現するためのアプローチの代替案及び関連リスクを評価できる。
- ・ 必要なコミュニケーション機能を実現するためのアプローチの代替案を評価できる。
- ・ 戦略選定の正当性を理由づけることができる。
- ・ 個々の戦略を統合し、情報、アプリケーション、テクノロジー基盤及び組織展望を含めた全体戦略を経営目標に沿った形で作り上げるための統合企画フレームワークを作成できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識については、インストラクターがテキストを用いて説明する。

- ・ ケースを用いて、経営戦略に即したビジョンの確立を実践する。
 - ・ ケースを用いて、各種モデルの作成、代替案の立案・評価・選定、正当性の理由付け、統合企画フレームワークとしてのとりまとめを実践する。
- 学習形式、学習教材、ツール、メディア
- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

.2.4 情報システムの戦術計画

■ 対象スキル、知識

「戦術計画(すなわち、戦略情報化企画書)を策定し、計画の適時、効率的かつ効果的な実施を確実に図るためのモニタリング/コントロール機構を確立するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 各プロジェクトの性格、機能、範囲、相互依存関係の具体的な定義、費用・効果の明確化、実施に要する期間の見積りについて学習する。
- ・ 経営戦略の支援におけるプロジェクトの戦略的影響、他のプロジェクトへの依存度、経営上の命題への対応、実現できる効果、必要な資源を考慮した全プロジェクトの優先順位の設定について学習する。
- ・ 全プロジェクトのスケジュール立案、主要成果物についてのクリティカルパス及びマイルストーンの明確化、基本的な前提条件及び制約の明示、各プロジェクトの実施を支援するための資金計画、資源充当計画、効果実現計画の策定について学習する。
- ・ 計画の実施状況及び経営上/IT 上の前提条件の定期的査閲とともに、必要に応じた改善策の実施を確実に図るためのモニタリング/コントロール機構の確立について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 戦略計画の実施を支援するために必要な全プロジェクトを具体的に特定し、具体化できる。
- ・ 戦術計画に含まれる全プロジェクトの優先順位を設定できる。
- ・ 組織が戦略を実行に移すための実行スケジュールを策定できる。
- ・ 計画の実施状況及び経営上/IT 上の前提条件の定期的査閲とともに、必要に応じた改善策の実施を確実に図るためのモニタリング/コントロール機構を確立することができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システムの開発と運用に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識
 - システム監査に関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、戦術計画のマネジメント方法、戦略情報企画書の作成を実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

➤ 参画型

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型ケースは事前学習（WEB型）が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。
- ・ ケーススタディに十分時間を当てるようにする。

■ 達成目標の評価基準

.3.2 サプライチェーン情報モデル

■ 対象スキル、知識

「経営戦略・戦術と整合性をとりながら、戦略情報企画を作成するときに、参照する基幹業務・サプライチェーンに関する情報モデルの知識」

「関連するコンサルティング型、及び参画型のコミュニケーションスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報戦略企画化フェーズで、基幹業務・サプライチェーンに関する情報モデル(上位)及び ERD(上位)を、自信をもって作成できるよう標準的な上位、及び詳細情報モデルについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 戦略・戦術を反映した基幹業務・サプライチェーンに関する情報モデル(上位)を作成できる。
- ・ 経営戦略・戦術を反映した基幹業務・サプライチェーンに関する ERD(上位)を作成できる。
- ・ ビジネスプロセス及び DFD との整合性をみることができる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ エンタープライズガバナンスの概要
- ・ エンティティ、オブジェクトの基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 文書管理、ワークフローソフトの基本的知識
- ・ マーケティング、販売業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
- ・ 製造、付加価値付与業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
- ・ 調達、購入業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
- ・ 物流、配送業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
- ・ 基幹業務に関わるキャッシュフロー(売掛、買掛)に関わる業務及びそのモニタリング、管理業務の知識

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。
 - コンサルティング型
 - 参画型

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと

- ・ 簡単なコンサルティング型ケースは事前学習（WEB型が可能）
 - ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。
 - ・ ケーススタディに十分に時間をあてる。
- 達成目標の評価基準

.3.3 知識情報モデル

■ 対象スキル、知識

「経営戦略・戦術と整合性をとりながら、戦略情報企画を作成するときに、参照する情報モデル(3)知識ベースに関する知識」

「関連するコンサルティング型、及び参画型のコミュニケーションスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報戦略企画化フェーズで、知識ベースに関する情報モデル(上位)及び ERD(上位)を、自信をもって作成できるよう標準的な上位、及び詳細情報モデルについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 戦略・戦術を反映した知識ベースに関する情報モデル(上位)を作成できる。
- ・ 経営戦略・戦術を反映した知識ベースに関する ERD(上位)を作成できる。
- ・ ビジネスプロセス及び DFD との整合性をみることができる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ エンタープライズガバナンスの概要
- ・ エンティティ、オブジェクトの基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 文書管理、ワークフローソフトの基本的知識
- ・ ナリッジマネジメントに関する基本的知識
 - 収集、体系化、改善、普及
- ・ 知識創生情報管理とモニタリングの知識
- ・ 内部アソシエーション情報管理とモニタリングの知識
- ・ 外部アソシエーション情報管理とモニタリングの知識

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。
 - コンサルティング型
 - 参画型

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習(WEB型)が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるように

する。

■ 達成目標の評価基準

.3.4 経営資源情報モデル

■ 対象スキル、知識

「経営戦略・戦術と整合性をとりながら、戦略情報企画を作成するときに、参照する情報モデル（４） 経営資源情報に関する知識」

「関連するコンサルティング型、及び参画型のコミュニケーションスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報戦略企画化フェーズで、経営資源に関する情報モデル（上位）及び ERD（上位）を、自信をもって作成できるよう標準的な上位、及び詳細情報モデルについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 戦略・戦術を反映した経営資源に関する情報モデル（上位）を作成できる。
- ・ 経営戦略・戦術を反映した経営資源に関する ERD（上位）を作成できる。
- ・ ビジネスプロセス及び DFD との整合性をみることができる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ エンタープライズガバナンスの概要
- ・ エンティティ、オブジェクトの基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 文書管理、ワークフローソフトの基本的知識
- ・ 人的資源（人事、給与計算等）の管理とモニタリングの知識
- ・ パートナー、アウトソーシング先の管理とモニタリングの知識
- ・ 財務資源（キャッシュフロー、会計等）の管理とモニタリングの知識
- ・ 原価（計算、企画）の管理とモニタリングの知識
- ・ その他資源（設備、情報システム等）の管理とモニタリングの知識
- ・ 環境（会計、報告等）の管理とモニタリングの知識

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。

➤ コンサルティング型

➤ 参画型

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習（WEB 型）が可能

- ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロード、更新できるようにする。
- 達成目標の評価基準

．情報化資源調達フェーズ

1.1 情報化資源調達フェーズの全体概要と基本原則



対象スキル、知識

「情報化資源に関連する調達行為の重要性・目的、遵守すべき基本原則と調達プロセスのステップを理解する。」

「業務改善、チェンジマネジメントのアクションプランの立案に関するスキル」

学習達成項目

- ・ 情報化資源に関連する調達行為の重要性・目的、基本原則について学習する。
- ・ 情報化資源調達プロセスへのアプローチについて学習する。
日用品の調達プロセスと、RFI、RFP に基づく調達プロセス
- ・ 情報化資源調達プロセスのステップについて学習する。
- ・ 業務改善、チェンジマネジメントのアクションプランの立案について学習する。

KPI 項目

- ・ 情報化資源調達プロセスにおいて、基本原則を適用できる。
- ・ 情報化資源調達プロセスのステップにより、情報化資源調達プロセスを進めることができる。
- ・ 業務改善、チェンジマネジメントのアクションプランの立案ができる。

教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ BPR、業務分析手法に関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識
- ・ IT プロダクトに関する知識

教授展開

- ・ 情報化資源調達の重要性・目的、基本原則、調達プロセスのステップについて、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ 業務改善、チェンジマネジメントのアクションプランの立案について、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、業務改善、チェンジマネジメントのアクションプランの立案を実践する。

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
達成目標の評価基準

.1.2 情報化資源調達の成熟度

対象スキル、知識

「情報化資源の調達にあたって、ITベンダー（調達先：以下、ITベンダー）の成熟度を評価し、ソリューションの選択の際に考慮するためのスキル」

学習達成項目

- ・ ITベンダーを評価するための成熟度モデルについて学習する。
 - * SPA (Software Process Assessment)
 - * COBIT (Control Objectives for Information and related Technology)
- ・ 評価した結果をもとに、ソリューション選択の際の考慮事項について学習する。

KPI 項目

- ・ 成熟度を評価し、ソリューション選択の際に考慮できる。

教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システム監査に関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識については、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、成熟度モデルによる評価を実践する。

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- 達成目標の評価基準

.2.1 調達の方向性の明確化

■ 対象スキル、知識

「情報化資源調達プロジェクトを立上げ、ITベンダーに何が期待されているかを、選択肢の効果的な比較を行うのに必要とされる詳細度で定義し、評価基準のアウトラインを作成するためのスキル」

学習達成項目

- ・ 調達のためのプロジェクトチームの編成と運営について学習する。
- ・ 調達の範囲、タイミング、調達の予算パラメータの確定し、新しい発展の理由付けについて学習する。
- ・ RFI、RFP を使う必要性和利点とを含め、調達アプローチの完成について学習する。
- ・ ITベンダーに何が期待されているのかを、選択肢の効果的な比較を行うのに必要とされる詳細度で定義することについて学習する。
- ・ 望ましい時期的条件と、主要な評価基準のアウトライン設定について学習する。

KPI 項目

- ・ 調達プロセスを完結するのに必要とされるスキルと経験を備えたプロジェクトを編成できる。
- ・ 調達の範囲、時期、調達の予算パラメータを確定し、新しい発展の理由付けを行える。
- ・ 詳細な要求の記述とそれぞれの経営的、技術的、組織的あるいはサービスレベルに関する要求の相対的な重要度を文書化できる。
- ・ 評価と選択に使われる基準のアウトラインをつくることができる。

教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識
- ・ ITプロダクトに関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識については、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、サービスレベルに関する要求事項の定義を実践する。
- ・ ケースを用いて、主要な評価基準の作成を実践する。

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
達成目標の評価基準

.2.2 RFP の作成と発行

■ 対象スキル、知識

「ITベンダーの提案を評価するための基準を設定し、契約条件を文書化し、RFI、RFP(含む ERD、DFD)を作成、発行するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 提案の詳細な評価を実施する前に、各 ITベンダーが満たさなければならない基本的な経営要件について文書化し、機能目標、技術目標、事業目標への適応度と、提案されたソリューションに関わる費用見合いを測定する手続きについて学習する。
- ・ ITベンダーのプレゼンテーションを評価する要件定義と、必要とされる ITベンダーの経験度、資金力、技術力の特定について学習する。
- ・ 各提案の長所、短所の評価をするためのマトリクスと項目の重み付けの定義について学習する。
- ・ 契約条件 (SLA) の明確な定義について学習する。
- ・ リファレンスモデルにを参照した ERD、DFD の作成について学習する。
- ・ 状況に応じた適切な RFI、RFP の作成と発行について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 経営要件を反映し、機能目標、技術目標、事業目標への適応度と費用見合いを測定する手続きを作成できる。
- ・ 各提案の評価をするためのマトリクスと項目の重み付けを定義できる。
- ・ 必要とされる ITベンダーの経験度、資金力、技術力を特定できる。
- ・ 契約条件を定義できる。
- ・ ERD、DFD を作成できる
- ・ 状況に応じた RFI、RFP を作成・発行できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識 (情報処理技術者試験の出題範囲を参照)
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識
- ・ IT プロダクトに関する知識

教授展開

- ・ 前提知識を活用した RFI、RFP、ERD、DFD の作成の方法について、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、前のステップで作成した評価基準に基づき、評価基準と測定方法の設定を実践する。
- ・ ケースを用いて、契約条件の文書化を実践する。
- ・ ケースを用いて、ここまでのステップで作成した諸資料をもとに、RFI、RFP、ERD、DFD の作成を実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

2.3 調達先の決定

■ 対象スキル、知識

「代替案を比較評価し、提案書の IT ベンダーの提案内容を評価し、調達契約締結に結びつけるとともに、情報化実行計画書として取りまとめるためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 提案の受領が、すべての IT ベンダーにとって透明性を保った方法で受け付けられ、記録されることを保証する方法について学習する。
- ・ 前のステップで作成した評価基準により、RFP にもっともよく応えていると思われる IT ベンダーの候補者リスト作成（絞込み）について学習する。
- ・ 提案にあるソリューションの内容の確認、要求条件と対比する方法について学習する。
- ・ IT ベンダーとの契約に関する事項の交渉管理の方法について学習する。
- ・ 評価された提案に基づいて相対比較を行い、ソリューションを選択するとともに、選択の理由付けの明確化、情報化実行計画書としてのとりまとめについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 各提案の相対的な長所と短所について評価基準に従って提案を評価できる。
- ・ ソリューションの機能性を要求条件と対比するために、提案の IT ベンダーの言明を確認できる。
- ・ 現実的で比較可能な所有費用を、ソリューション候補すべてについて設定できる。
- ・ 評価された提案に基づいて、最良のソリューションをあらわしている総合的な結論に到達するために、相対比較ができる。
- ・ なぜそのソリューションが最良の価値を提供するのか、選定の決断について理由付けを明らかにできる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識
- ・ IT プロダクトに関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識については、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、IT ベンダーからの提案書を評価し、ソリューション選択・理由付け、情報化実行計画書のとりまとめを実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

.3.1 目標データモデル

■ 対象スキル、知識

「経営企画システムのデータモデルの知識」

「調達、開発、運用段階において、データモデルに関連するツールをもちいて、コミュニケーションするスキル」

学習達成項目

- ・ 調達フェーズにおいて、経営企画業務システムの開発ルートの選択を誤らない程度に、データ属性をジェネリックデータモデルを用いて読みこみ、後の開発、運用のフェーズでも自信をもってモニタリングできるよう、標準的なデータモデルと関連するツールの使い方について学習する。

KPI 項目

- ・ データモデルを説明できる。
- ・ 戦略情報企画で作成した経営企画業務の情報モデルを反映させ、データモデルの選択、しぼりこみができる。
- ・ DFD と ERD の整合性をみることができる。
- ・ データ属性レベルの成熟度の判断ができる。
- ・ 開発、運用段階でのデータモデルの使い方が理解できる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ エンタープライズガバナンスの概要
- ・ エンティティ、オブジェクトに関する基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ モニタリングの知識
- ・ 経営企画の IT プロダクトに関する知識
- ・ 経営企画に関する知識
 - ビジョン・ドメイン・ミッションの内容と作成方法
 - 外部・内部環境分析の内容と作成方法
 - CSF の内容と作成方法
 - 経営戦略の内容と作成方法
 - 経営戦術の内容と作成方法
 - 業務計画・予算の内容と作成方法

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。

コンサルティング型

参画型

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習（WEB 型）が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。

達成目標の評価基準

.3.2 モニタリングデータモデル

対象スキル、知識

「経営モニタリングシステムのデータモデルの知識」

「調達、開発、運用段階において、データモデルに関連するツールをもちいて、コミュニケーションするスキル」

学習達成項目

- ・ 調達フェーズにおいて、経営モニタリングシステムの開発ルートの選択を誤らない程度に、データ属性をジェネリックデータモデルを用いて読みこみ、後の開発、運用のフェーズでも自信をもってモニタリングできるよう、標準的なデータモデルと関連するツールの使い方について学習する。

KPI 項目

- ・ データモデルを説明できる。
- ・ 戦略情報企画で作成したモニタリング業務の情報モデルを反映させ、データモデルの選択、しぼりこみができる。
- ・ DFD と ERD の整合性をみることができる。
- ・ データ属性レベルの成熟度の判断ができる。
- ・ 開発、運用段階でのデータモデルの使い方が理解できる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システム監査に関する知識
- ・ エンティティ、オブジェクトに関する基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 経営モニタリングの IT プロダクトに関する知識
- ・ 経営モニタリングの知識
 - 継続モニタリングの内容
 - 定期的モニタリングの内容

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。

コンサルティング型

参画型

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること

- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習（WEB 型）が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。

達成目標の評価基準

.3.3 サプライチェーンデータモデル

対象スキル、知識

「統合基幹業務システムのデータモデルの知識」

「調達、開発、運用段階において、データモデルに関連するツールをもちいて、コミュニケーションするスキル」

学習達成項目

- ・ 調達フェーズにおいて、統合基幹業務システムの開発ルートの選択を誤らない程度に、データ属性をジェネリックデータモデルを用いて読みこみ、後の開発、運用のフェーズでも自信をもってモニタリングできるよう、標準的なデータモデルと関連するツールの使い方について学習する。

KPI 項目

- ・ データモデルを説明できる。
- ・ 戦略情報企画で作成した基幹業務の情報モデルを反映させ、データモデルの選択、しぼりこみができる。
- ・ DFD と ERD の整合性をみることができる。
- ・ データ属性レベルの成熟度の判断ができる。
- ・ 開発、運用段階でのデータモデルの使い方が理解できる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ エンティティ、オブジェクトに関する基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 基幹業務の IT プロダクトに関する知識
- ・ 基幹業務・サプライチェーンの知識
 - マーケティング、販売業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
 - 製造、付加価値付与業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
 - 調達、購入業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
 - 物流、配送業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
 - 基幹業務に関わるキャッシュフロー（売掛、買掛）に関わる業務及びそのモニタリング、管理業務の知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。

コンサルティング型

参画型

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習（WEB 型）が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースにリファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。

達成目標の評価基準

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習（WEB 型）が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースに、リファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。

達成目標の評価基準

.3.5 経営資源データモデル

対象スキル、知識

「経営資源関連システムのデータモデルの知識」

「調達、開発、運用段階において、データモデルに関連するツールをもちいて、コミュニケーションするスキル」

学習達成項目

- ・ 調達フェーズにおいて、経営資源関連システムの開発ルートの選択を誤らない程度に、データ属性をジェネリックデータモデルを用いて読みこみ、後の開発、運用のフェーズでも自信をもってモニタリングできるよう、標準的なデータモデルと関連するツールの使い方について学習する。

KPI 項目

- ・ データモデルを説明できる。
- ・ 戦略情報企画で作成した経営資源に関わる業務の情報モデルを反映させ、データモデルの選択、しぼりこみができる。
- ・ DFD と ERD の整合性をみることができる。
- ・ データ属性レベルの成熟度の判断ができる。
- ・ 開発、運用段階でのデータモデルの使い方が理解できる。
- ・ 関連するコミュニケーションツールを使うことができる。

教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ エンティティ、オブジェクトに関する基本的知識
- ・ ERD、DFD に関する基本的知識
- ・ 経営資源管理業務に関わる IT プロダクトに関する知識
- ・ 経営資源管理業務の知識
 - 人的資源（人事、給与計算等）の管理とモニタリングの知識
 - パートナー、アウトソーシング先の管理とモニタリングの知識
 - 財務資源（キャッシュフロー、会計等）の管理とモニタリングの知識
 - 原価（計算、企画）の管理とモニタリングの知識
 - その他資源（設備、情報システム等）の管理とモニタリングの知識
 - 環境（会計、報告等）の管理とモニタリングの知識

教授展開

- ・ 基本的な知識と考え方は、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ プロジェクトのケース事例を分析し、モデルと成熟度について理解を深める。
- ・ 前提知識があることを前提とした演習をおこなう。

コンサルティング型

参画型

学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ 基本書が前もって読めるように用意されていること
- ・ ジェネリックモデルを参照すること
- ・ ジェネリックモデルを中心とした説明をスクール型で行うこと
- ・ 簡単なコンサルティング型は事前学習（WEB 型）が可能
- ・ 図形作成等のソフトをベースに、リファレンスジェネリックモデルをダウンロードできるようにする。

達成目標の評価基準

・情報システム開発・テスト・導入フェーズ

1.1 情報システム開発・テスト・導入フェーズの全体概要と基本原則



■ 対象スキル、知識

「情報システムの開発・テスト・導入の基本原則と導入実施の概要を理解し、的確な情報システムの開発・テスト・導入が行えるよう指導、助言するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報システムの開発・テスト・導入の基本原則について学習する。
- ・ 情報システムの開発・テスト・導入の導入実施の概要について学習する。
- ・ 業務改善定着/チェンジマネジメントの実施のモニタリングについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 情報システム開発・テスト・導入フェーズにおいて、基本原則を適用できる。
- ・ 情報システムの開発・テスト・導入の導入ステップの概要について、理解できる。
- ・ 業務改善定着/チェンジマネジメント実施状況についてのモニタリングできる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ BPR、業務分析手法に関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識
- ・ IT プロダクトに関する知識

教授展開

- ・ テキストを用いて、インストラクターが説明する。
- ・ ケースを用いて、業務改善定着/チェンジマネジメント実施状況についてモニタリングを実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

1.2 情報システム開発・テスト・導入の成熟度

■ 対象スキル、知識

「調達時に評価した IT ベンダーの開発・テスト・導入の成熟度に対して、継続的評価・改善を指導、助言するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ ITベンダーの開発・テスト・導入の能力を評価する視点から成熟度の考え方について学習する。
 - * SPA (Software Process Assessment)
 - * COBIT (Control Objectives for Information and related Technology)
- ・ ITベンダーの開発・テスト・導入のプロセス管理能力を評価する仕組みについて学習する。
- ・ 調達段階で作成した「情報化実行計画書」に基づき、開発・テスト・導入プロセス終了時に評価した成熟度をもとに、ITベンダーの企業能力が適切であることの検証、確認について学習する。
- ・ ITベンダーの開発・テスト・導入プロセスの成熟度の強み・弱みを明らかにし、継続的に取引を続けるかどうかの判断について学習する。
- ・ 成熟度に照らして開発・テスト・導入プロセスの強み・弱みを明らかにし、企業統治能力の改善活動が妥当であるか否かの判断について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 開発・テスト・導入のプロセスが理解できる。
- ・ 成熟度モデルによる評価、改善を理解できる。
- ・ 成熟度モデルとその使い方を理解できる。
- ・ 成熟度が評価できる

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システムの開発と運用に関する知識
 - システム監査に関する知識

教授展開

- ・ SPA、COBITで用いられている成熟度について、その定義、評価手法、改善手法をインストラクターが説明する。
- ・ 情報システムの開発・テスト・導入の成熟度の考え方について、必要な知識をテキストを用いてインストラクターが説明する。
- ・ 情報システム開発・テスト・導入に関するプロセスの評価の手法をケーススタディを交えて講義することも有効

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

2.1 情報システム開発・テスト・導入の実施 770-7

■ 対象スキル、知識

「情報システム開発・テスト・導入実施の詳細について理解した上で、プロジェクトの実施状況をモニタリングし、課題・問題点が発生した場合に的確なアドバイスを行うためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報システムの開発・テスト・導入実施の詳細を理解する。

調達段階で設定される「情報化実行計画書」に基づき、当該企業の「ビジネスプロセスモデル、情報/データモデル」が実行できる情報システムの開発・導入が行われているかの視点で、

- ・ ITベンダーの一連の作業進捗/結果のモニタリング、指導、助言について学習する。
- ・ 「情報化・経営改革モニタリング報告書」の作成について学習する。
 - 外部設計とマッピング
 - 実行個別メソッド（内部設計、開発・カスタマイズ）
 - * 個別メソッドについては、次の単元にて学習
 - 総合受入テスト
 - 展開と実運用

■ KPI 項目

- ・ 情報化実行計画の実現をモニタリングできる。
- ・ 情報システム開発の目標を ITベンダーに徹底できる。
- ・ 的確なプロジェクト管理をモニタリング、指導、助言できる。
- ・ 業務改革目標、ビジネスプロセスモデル、情報/データモデルが達成・実現できる情報システムとしての機能および処理能力・レスポンスが実装されているかの視点で、必要な受入テストの実施をモニタリング、指導、助言できる。
- ・ 情報システム開発・テスト・導入実施の際に考慮すべき事項、成果について理解できる。
- ・ 導入/本番稼動において、情報システムが正常に機能しているかをモニタリングできる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞にみられるコア・バリュー、エクセレンスモデルに関する知識
- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
- ・ ITプロダクトに関する知識

教授展開

- ・ 情報システム開発・テスト・導入実施の詳細について、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、情報システム開発・テスト・導入実施状況のモニタリングを実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

2.2 実行メソッド毎のポイント 77 0-7

■ 対象スキル、知識

「情報システム開発・テスト・導入実施時の実行メソッド毎のポイントについて指導、助言するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報システム開発・テスト・導入実施時の実行メソッド毎の活動、考慮すべき事項、成果について学習する。
 - ERP 等大型パッケージ利用型
 - グループウェア、イントラネット等情報管理パッケージ利用型
 - パソコンソフト利用型
 - ASP 利用型
 - 個別開発型
 - 技術的メソッド型
 - その他のメソッド（RAD、構造化分析、オブジェクト指向、リバースエンジニアリング）
- ・ ソリューションの各実行メソッドに適合する（組み合わせた）的確なプロジェクト管理のモニタリングについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 情報システム開発・テスト・導入実施時の実行メソッド毎の、活動、考慮すべき事項、成果について理解できる。
- ・ 実行メソッド毎に適合する的確なプロジェクト管理のモニタリング、指導、言ができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
- ・ IT プロダクトに関する知識

教授展開

- ・ 情報システム開発・テスト・導入実施時の実行メソッド毎の、活動、考慮すべき事項、成果について、インストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、実行メソッド毎のプロジェクト実施状況のモニタリングを実践する。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEBベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

.2.3 業務改善定着とチェンジマネジメント

■ 対象スキル、知識

「ビジネスモデルを実現する業務改善の定着と社員変革の環境作りの知識とスキル」

■ 学習達成項目

- ・ システム導入と一体となって経営目的を達成するための業務改善（変革）の重要性と阻害要因について、学習する。
- ・ 阻害要因を克服するための3つの原則として 計画目的の明確化、 利用者の要求の明確化、 変革の意図を全ての人に理解してもらう効果的方法について学習する。
- ・ 業務改善の方法として、BPR プロジェクトの概要と進め方について学習する。
- ・ 変革のマネジメントを実施するうえで、経営者やプロジェクトリーダーが行うべき効果的コミュニケーション方法について学習する。
- ・ 主要なビジネスプロセスを共有する外関係者（顧客やサプライヤー）とのコミュニケーション方法を理解できる。
- ・ 変革の準備として、システム導入に伴う新たなスキル獲得の企画方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 組織特性を踏まえて業務改善とチェンジマネジメント成功の要件を定義できる。
- ・ 変革を促す原則とリーダーの役割を明示できる。
- ・ 目的を共有するためのコミュニケーションの原則と適切な情報提供方法を示すことができる。
- ・ BPR の考えかたと実施にあたっての諸課題と対応策を示すことができる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ BPR の概要と業務分析方法に関する知識
- ・ プロジェクトでのコミュニケーション方法に関する知識（PMBOK コミュニケーションマネジメント）
- ・ 一般的コミュニケーション技術に関する知識
- ・ 動機付けや人間関係のマネジメントに関する知識マーケティング・販売業務の管理に関する知識
- ・ 製造・付加価値付与業務の管理に関する知識
- ・ 調達、購入業務の管理に関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、「変革のマネジメントと効果的コミュニケーション」の理解を深める。
- ・ BPR の改善についていくつかの具体的事例を提示し、成功要因は何かを考える。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）

- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 「業務改善定着とチェンジマネジメント」のケース学習とプレゼンテーション、質疑応答
- 達成目標の評価基準

．運用サービス・デリバリーフェーズ

1.1 運用サービス・デリバリーフェーズの全体概要と基本原則



■ 対象スキル、知識

「情報システム運用の基本原則とアプローチの概要を理解し、的確な運用が実施できるよう指導、助言するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 情報システム運用の基本原則を理解し、的確な運用実施の指導、助言について学習する。
- ・ 情報システム運用のアプローチの概要について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 運用デリバリーフェーズにおいて、情報システム運用の基本原則を適用して指導、助言できる。
- ・ 情報システムの運用の準備から評価までを理解する。
- ・ 運用設計を指導、助言できる。
- ・ 教育の方法を指導、助言できる。
- ・ 運用の状況の改善を図るため、現状の把握・問題点の発見・解決策の案出などに要するツール類を使いこなすことができる。
- ・ 外部からの不当な進入や内部の機密保護の知識を有する。
- ・ 情報量の増大や情報処理技術の変革に適時・的確に対応できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ 必要な知識について、テキストを用いて説明する。
- ・ 運用に関する基本知識について、ケーススタディを交えて講義することも有効

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

1.2 情報システム運用の成熟度

■ 対象スキル、知識

「サービスレベルアグリメントで定められたサービスを遂行する企業能力の視点から、情報システム運用の成熟度を評価、助言するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ サービスを遂行する情報システム運用能力と、それを成熟度としてモニタリング・評価する方法について学習する。
 - *COBIT (Control Objectives for Information and related Technology)
- ・ 成熟度による情報システム運用の効果・問題点の考え方について学習する。
- ・ サービスレベルアグリメントで定められたサービスと、情報システム運用の実績により評価した結果が、成熟度として表わされることについて学習する。
- ・ 成熟度による情報システム運用プロセスの強み・弱みの識別方法について学習する。
- ・ 情報システム運用の成熟度に照らして、情報システム運用上の改善活動が企業の問題解決として妥当であることを判断することについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 情報システム運用の概要についてのプロセスを理解できる。
- ・ 成熟度モデルによる問題点の識別、改善活動の方向付けを理解できる。
- ・ 情報システム運用の成熟度モデルを理解できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - システムの開発と運用に関する知識
 - システム監査に関する知識

教授展開

- ・ COBITで用いられている成熟度について、その定義、評価手法、改善手法をインストラクターが説明する。
- ・ 情報システム運用の成熟度の考え方について、必要な知識をテキストを用いてインストラクターが説明する。
- ・ 情報システム運用に関するプロセスの評価の手法について、ケーススタディを交えて講義することも有効

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

.2.1 情報システム運用のアプローチ

■ 対象スキル、知識

「当該企業で目的とするサービスレベルアグリメント項目が適切に実行されているかの視点で、情報システムの運用アプローチの決定について指導、助言するためのスキル」

■ 学習達成項目

- ・ 当該企業のサービス実施による情報システム投資効果を明確にするため、情報システムの運用の効果、運用上の問題点の改善をモニタリング・評価することについて学習する。
- ・ 運用サービス・デリバリの基本原則とサービスレベルアグリメントの内容を理解し、サービスレベルのモニタリング目標を確認/セットすることについて学習する。
- ・ 情報化実行計画書の内容を理解し、対応するサービスレベルのモニタリング項目について学習する。
- ・ サービスレベルを実現する情報システム運用の実行方法とプロセスを理解し、問題点に対する共同レビューについて学習する。
- ・ 運用サービスによる経営上のQCT(効果)や効率が見えるような指標の指摘について学習する。
- ・ 運用サービスに対するコスト管理結果を分析し、情報システム上の問題点の指摘について学習する。
- ・ 利用者、運用者に対する教育・訓練の実施について学習する。
- ・ 「モニタリングガイドライン」に沿って、運用サービスに対する一連のモニタリング情報を、モニタリング報告書としてまとめることについて学習する。

■ KPI 項目

- ・ 運用サービス・デリバリの改善にあたって、サービスレベルの有効性を理解できる。
- ・ 情報システム運用のサービスレベルを維持するための機能、品質、パフォーマンス、セキュリティ、構成管理などのモニタリング指標を理解できる。
- ・ 業務運用サービスの効果を評価するにあたって、サービスレベル、運用コスト、サービス料金などのモニタリング指標を理解できる。
- ・ 運用サービスによる経営上のQCT(効果)を理解できる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ 上級情報処理技術者として基本的に必要とする知識（情報処理技術者試験の出題範囲を参照）
 - コンピュータシステムに関する知識
 - システムの開発と運用に関する知識
 - セキュリティと標準化に関する知識
 - 情報化と経営に関する知識

教授展開

- ・ サービスレベルとはなにかについてインストラクターが説明し、情報システム運用での重要性を説明する。
- ・ サービスレベルが実施された場合の効果、効率についての測定方法の考えについて、インストラクターが説明する。

- ・ 運用に関する基本知識について、ケーススタディを交えて講義することも有効
- 学習形式、学習教材、ツール、メディア
 - ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
 - ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

.2.2 業務改善達成度

■ 対象スキル、知識

「経営戦略策定フェーズで作成したビジネスモデルを実現する、具体的改善活動の目標達成度を評価するために、活動実績データを収集し、改善を実施する知識とスキル」

■ 学習達成項目

具体的改善活動のモニタリングアプローチの目的と手法を理解し、これを実行する方法を指導できるようにする。

- ・ 改善目標および改善活動の成果指標を設定し、収集すべきデータを選定する方法について学習する。
- ・ 改善活動に関する説明責任の必要性和実施の方法について学習する。
- ・ 改善実績データの適切な測定計画立案する方法について学習する。
- ・ 収集データを理解し、その傾向変化、ばらつきの原因分析の方法について学習する。

■ KPI 項目

- ・ 改善目標に照らして、適切な活動目標設定の設定が行える。
- ・ 改善活動の説明責任の重要性を理解し、活動全体の適切な説明方法を理解している。
- ・ 収集したデータの推移やばらつきから改善実施のマネジメントの課題を把握し、是正措置が講じられる。

■ 教授指針

前提知識

- ・ マルコム・ボルドリッジ賞、EQ 賞、日本経営品質賞に示される経営のコア・バリューに関する知識
- ・ BPR の概要と業務分析方法に関する知識
- ・ 管理図、パレート図、特性要因図、根本原因分析など問題解決技法に関する知識
- ・ マーケティング・販売業務の管理に関する知識
- ・ 製造・付加価値付与業務の管理に関する知識
- ・ 調達、購入業務の管理に関する知識

教授展開

- ・ 基本的考え方と知識はインストラクターがテキストを用いて説明する。
- ・ ケースを用いて、業務改善達成度のモニタリングと改善の実施を理解する。
- ・ ケースは身近で日常性の高いものとする。

■ 学習形式、学習教材、ツール、メディア

- ・ テキストの事前学習（WEB ベースの知識教育でも可）
- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
- ・ 「業務改善達成度のモニタリングと改善」のケース学習とグループディスカッション、発表と質疑

■ 達成目標の評価基準

- ・ テキストに沿ったインストラクターによるスクール形式の学習
 - ・ 個人によるケース学習とグループディスカッション、発表と質疑
- 達成目標の評価基準

参考文献

- PMI A Guide to the Project Management Body of Knowledge (PMBOK)
原文が必要な場合は、<http://www.pmi.org/> からダウンロードしてください。
 - THE MALCOLM BALDRIGE NATIONAL QUALITY AWARD
マルコム・ボルドリッジ賞 審査基準
原文が必要な場合は、<http://www.quality.nist.gov/bcpg.pdf.htm>からダウンロードしてください。
 - European Quality Award (EQA)
ヨーロッパ品質賞 審査基準
原文が必要な場合は、<http://www.efqm.org/>からダウンロードしてください。
 - 日本経営品質賞 審査基準書
(財)社会経済生産性本部内の経営品質協議会事務局から入手してください。
 - IFAC-ITC International Information Technology Guideline 2
Managing Information Technology Planning for Business Impact
国際ITガイドライン第2号 参照
 - IFAC-ITC International Information Technology Guideline 3 Exposure Draft
Acquisition of Information Technology
国際ITガイドライン第3号 公開ドラフト 参照
 - IFAC-ITC International Information Technology Guideline 4 Exposure Draft
Implementation of Information Technology Solutions
国際ITガイドライン第4号 公開ドラフト 参照
 - IFAC-ITC International Information Technology Guideline 5 Exposure Draft
IT Service Delivery And Support
国際ITガイドライン第5号 公開ドラフト 参照
- * IFAC : International Federation of Accountants 国際会計士連盟
ITC : Information Technology Committee 情報技術委員会
原文が必要な場合は、<http://www.ifac.org/InformationTechnology/index.tmp>からダウンロードしてください。
- APQC Process Classification Framework
原文が必要な場合は、<http://www.apqc.org/free/framework.htm>からダウンロードしてください。
 - COSO Internal Control Integrated Framework -Tool (COSO Framework and Tool)
原文が必要な場合は、<http://www.coso.org/>からダウンロードしてください。
 - ISACA Control Objectives for Information and related Technology (COBIT)
原文が必要な場合は、<http://www.isaca.org/cobit.htm>からダウンロードしてください。

ITC を目指す人に必要とされる経営・IT に関する前提知識レベル

別紙参照

本文中に示す上級情報処理技術者とは、情報処理技術者試験区分の基本情報技術者、初級システムアドミニストレータを除く区分とする。

IT コーディネータカリキュラム作成ガイドライン

発行日：2000年10月2日 Ver. 1.0 版

著作者：IT コーディネータ検討グループ、ITSSP 事務局

発行者：ITSSP 事務局

〒100-8019 東京都千代田区内幸町 1-1-7 大和生命ビル 22F

本ガイドラインを無断複写複製（コピー）することを禁じます。

2000 IT コーディネータ検討グループ、ITSSP 事務局

ITCカリキュラムの前提知識						＜参考＞ 日本経営品質賞セルフアセッサ養成プログラム		
前提知識表現 セルフアセッサとしての基本的に必要とする知識 {セルフアセッサ認定コース・研修の範囲を参照}	経営戦略策定フェーズ	戦略情報化企画フェーズ	情報化資源調達フェーズ	情報システム開発/試験/導入フェーズ	運用/保守/改善フェーズ	セルフアセッサ認定コース研修範囲の項目単位での要求レベル	分野	知識・スキル内容
経営環境の変化を認識する知識	↔						事業概要	5つの競争要因分析 アイベルの事業ドメインの定義、顧客の視点に立った事業価値の定義 CSF(クリティカル・サクセス・ファクター)、KSF(キー・ファクター・フォー・サクセス)、KBD(キービジネスドライバ)などの概要
競合分析に関する知識	↔						競合比較分析	コア・コンピタンスの概要(グリー・ハメル、プラハラドの定義) 技術的革新が経営に及ぼす影響、5つの競争要因の代替品の脅威 顧客視点での製品・サービス価値の定義 サプライヤーの定義と特性に応じたマネジメント プロセス・マッピング、プロセス特性の明確化 デファクトスタンダードとは シェアポジションと市場戦略、5つの競争要因、経験曲線とコストダウン 5つの競争要因、参入障壁、集中化戦略、差別化戦略、コスト優位戦略
強み弱みを分析に関する知識	↔						企業分析	SWOT分析の概要 株主価値、従業員価値、企業市民、IR ITが経営に与える影響に関する事例
ビジネスモデル作成に関する知識	↔						ビジネスモデル認識	ビジネス・モデルとは、インフル・エン・ス・ダイアグラム 競争力強化と改善のプログラム
経営品質プログラム(ビジネスエクセレンス)に関する知識	↔						経営品質とは	経営品質の基本的考え方に関すること セルフアセスメントとは、気付き 競争優位を確立するためのプラットフォームの変遷(コスト・クオリティ・戦略)
経営品質の中核的考え方に関する知識	↔						経営品質の中核的考え方	顧客本位、社員重視、競争優位、社会責任 カオス時代の戦略的概念、リーダーシップ、プロセス特性、ナレッジマネジメント、アジル、パートナーシップ、環境保全と社会的責任、情報に基づくフレームワーク 経営品質の8つのフレームワーク
成熟度評価のガイドラインに関する知識	↔						経営と成熟度(評点)	成熟度とは、経営の成熟度モデル 成熟度は、経営の成熟度を評価する際の重要なポイント
リーダーシップに関する知識	↔						経営ビジョンとリーダーシップ	経営理念、ビジョン、ミッション、ビジョナリーカンパニー、フェアプロセス、リーダーシップとコミュニケーション マッキンゼーの7S
顧客と市場の理解に関する知識	↔						顧客・市場の理解と対応	経営目標達成度指標、レビューと改善、意思決定、ダイアログ・ディレクション・プロセス CRM、SFA、苦情対応、カスタマーインテグレーション、カスタマーインサイト、IT活用による顧客との関係強化 CS(顧客満足度)とロイヤリティ、顧客生涯価値、ワン・ツー・ワンマーケティング 市場予測、ニーズ、ウォンツ、エクスペクテーション リスニング・ポスト 苦情対応、サービス基準、苦情の4つの特性 サービス基準とその測定 根本原因分析、未然防止、苦情データの活用 顧客満足度とは、満足要因とロイヤリティ、満足度測定方法、定性情報の分析 不満度とは、不満度指標、不満度減少のマネジメント SWOT分析の概要、戦略策定で考慮すべき内部環境と外部分析 戦略目標、重点施策 中期経営計画、短期計画、創策と戦略フォーメーション 人材(HR)計画 キーパフォーマンスドライバーとパフォーマンスインデックス、BSC(バランス・スコア・カード) チェンジ・マネジメント ナレッジマネジメント チーム活動、バーチャルチーム活動 X理論とY理論、コミュニケーションと生産性、自律のマネジメント、エンパワーメント 360度評価、コンピテンシーアセスメント、目標管理 コンピテンシーモデル コンピテンシーモデル、CDP(キャリア開発プログラム) キーパフォーマンスドライバーとパフォーマンスインデックス、人材育成活動と事業成果の関係性分析の概要 社員満足度、社員満足要因と社員のロイヤリティ、社員サポートの仕組み 自律と自己責任のマネジメント、情報提供とフェアプロセス 社員サポート、福利厚生
経営戦略策定と展開に関する知識	↔						戦略の策定と展開	戦略策定の仕組み 戦略分析に関すること 戦略目標に関すること 戦略展開の仕組み 実行計画策定に関すること 戦略達成の人材要件に関すること 進捗把握の評価尺度・指標に関すること 組織の自己革新能力に関すること ナレッジやスキル共有に関すること 組織横断型活動に関すること 社員の生産性向上に関すること 社員の業績評価に関すること 社員教育の仕組み 社員教育体制に関すること 自己啓発・能力開発・キャリア開発に関すること 教育効果を把握する評価尺度・指標に関すること 社員満足に関すること エンパワーメントに関すること 事業成果と社員重視の風土醸成に関すること
人材開発と学習環境に関する知識	↔						人材開発と学習環境	人材開発と学習環境 学習環境の仕組み 組織の自己革新能力に関すること ナレッジやスキル共有に関すること 組織横断型活動に関すること 社員の生産性向上に関すること 社員の業績評価に関すること 社員教育の仕組み 社員教育体制に関すること 自己啓発・能力開発・キャリア開発に関すること 教育効果を把握する評価尺度・指標に関すること 社員満足に関すること エンパワーメントに関すること 事業成果と社員重視の風土醸成に関すること
プロセスマネジメントに関する知識	↔						プロセスマネジメント	基幹業務プロセスのマネジメント ITを活用したプロセス構築に関すること 製品・サービスの企画・開発・設計プロセスに関すること 品質管理に関すること サイクルタイム短縮に関すること コスト管理に関すること 生産性と効率に関すること 設計レビューに関すること 生産・提供プロセスに関すること プロセス能力測定に関すること プロセス測定データ分析に関すること 支援業務プロセスのマネジメント 支援業務サービスに関すること トータルコストに関すること 外部委託に関すること ビジネスパートナーとの関係 ビジネスパートナーとの協力関係に関すること サプライチェーンマネジメントに関すること 情報共有と活用 情報の選択と共有化 情報・データの信頼性、安全性に関すること 情報・データ共有方法に関すること 戦略・意思決定支援の情報分析に関すること 財務情報分析に関すること 日常活動の情報分析に関すること 企業活動の成果 人材開発と学習環境の成果 学習環境の成果に関すること 社員教育の成果に関すること 社員教育の結果に関すること クオリティ活動の成果 製品・サービス・プロセスのクオリティに関すること ビジネスパートナーのクオリティに関すること 新製品・事業転換等の成果に関すること 財務・業績についての成果に関すること 国際会計基準に関すること 顧客満足の成果 顧客満足の成果に関すること 顧客不満足度の成果 顧客不満足度の成果に関すること 社会的責任と企業倫理 コーポレートガバナンスに関すること 企業の情報公開・IRに関すること 企業の雇用問題に関すること 地球環境問題に関すること 企業市民や地域社会での活動に関すること 公益への支援に関すること 企業倫理に関すること 競合比較とベンチマーキング 競合比較に関すること 業務システムの改善 業務システムの改善に関すること アセスメント 評価システム アセスメントによる評価方法に関すること コメント作成 アセスメントによるコメントの作成に関すること 協議評価 アセスメントによる協議の評価方法に関すること インタビュー方法 現地評価でのインタビューに関すること レポーティング 評価レポートに関すること 整合性確認 最終評価の整合性に関すること
情報の共有化と活用に関する知識	↔						情報の共有化と活用	情報共有のインフラ 相関分析、傾向分析 主要な財務データを用いた分析(ドリルダウン、成長性分析、安全性分析、収益性分析) 日常活動を支える情報分析、POS、受発注情報分析、取引傾向分析 組織学習を促進する活動のパフォーマンス指標と事業成果の関係分析 教育活動のパフォーマンス指標と事業成果の関係分析、教育コストと成果の分析 社員満足要因と満足度、社員満足度と生産性 製品・サービス・プロセスのクオリティ指標、製品・サービスプロセス指標 ビジネスパートナーの能力指標、ビジネスパートナーから提供される製品・サービスのクオリティ指標 新製品開発能力を測定する指標 財務指標、売上、利益、ROA、ROI、キャッシュフロー、連結会計 BS、PL、キャッシュフロー、連結会計 顧客満足度、ロイヤリティ、顧客シェア、顧客維持率 不満度指標、顧客離脱率 コーポレートガバナンスとは 情報公開と利害関係者、IRとは 雇用と地域貢献 ISO14000環境マネジメント 企業市民活動、業界貢献、地域貢献
企業活動の成果に関する知識	↔						企業活動の成果	企業倫理 競合比較とベンチマーキング 競合比較に関すること 業務システムの改善 業務システムの改善に関すること アセスメント 評価システム アセスメントによる評価方法に関すること コメント作成 アセスメントによるコメントの作成に関すること 協議評価 アセスメントによる協議の評価方法に関すること インタビュー方法 現地評価でのインタビューに関すること レポーティング 評価レポートに関すること 整合性確認 最終評価の整合性に関すること
顧客満足の成果に関する知識	↔						顧客満足の成果	顧客満足の成果 顧客満足の成果に関すること 顧客不満足度の成果 顧客不満足度の成果に関すること 社会的責任と企業倫理 コーポレートガバナンスに関すること 企業の情報公開・IRに関すること 企業の雇用問題に関すること 地球環境問題に関すること 企業市民や地域社会での活動に関すること 公益への支援に関すること 企業倫理に関すること 競合比較とベンチマーキング 競合比較に関すること 業務システムの改善 業務システムの改善に関すること アセスメント 評価システム アセスメントによる評価方法に関すること コメント作成 アセスメントによるコメントの作成に関すること 協議評価 アセスメントによる協議の評価方法に関すること インタビュー方法 現地評価でのインタビューに関すること レポーティング 評価レポートに関すること 整合性確認 最終評価の整合性に関すること
社会的責任に関する知識	↔						社会的責任と企業倫理	企業市民活動、業界貢献、地域貢献
ベンチマーキングに関する知識	↔						競合比較とベンチマーキング	競合比較に関すること 業務システムの改善 業務システムの改善に関すること アセスメント 評価システム アセスメントによる評価方法に関すること コメント作成 アセスメントによるコメントの作成に関すること 協議評価 アセスメントによる協議の評価方法に関すること インタビュー方法 現地評価でのインタビューに関すること レポーティング 評価レポートに関すること 整合性確認 最終評価の整合性に関すること
業務システム改善・改革に関する知識	↔						業務システム改善	業務システムの改善 業務システムの改善に関すること アセスメント 評価システム アセスメントによる評価方法に関すること コメント作成 アセスメントによるコメントの作成に関すること 協議評価 アセスメントによる協議の評価方法に関すること インタビュー方法 現地評価でのインタビューに関すること レポーティング 評価レポートに関すること 整合性確認 最終評価の整合性に関すること
アセスメントに関する知識	↔						アセスメント	アセスメントによる評価方法に関すること コメント作成 アセスメントによるコメントの作成に関すること 協議評価 アセスメントによる協議の評価方法に関すること インタビュー方法 現地評価でのインタビューに関すること レポーティング 評価レポートに関すること 整合性確認 最終評価の整合性に関すること
グループ経営のマネジメントに関する知識	↔						グループ経営マネジメント	活動の一貫性、ビジネスモデル

〔凡例〕
 : 必ず知っておく必要のある知識
 : 基本的な概念レベルを知っておく必要のある知識 N/A : 適用対象外

ITCカリキュラムの前提知識						<参考> 情報処理技術者試験 上級システムアドミニストレータ・システム監査 出題範囲				区分	技術レベル	
前提知識表現 上級情報処理技術者*として基本的に必要とする知識 [情報技術者試験の出題範囲を参照]	経営戦略策定フェーズ	戦略情報化企画フェーズ	情報化資源調達フェーズ	情報システム開発/試験/導入フェーズ	運用/保守/デバッグフェーズ	情報処理技術者試験出題範囲の小項目単位の要求レベル	分野	知識・スキル内容				
コンピュータシステムに関する知識						N/A	コンピュータシステム	ハードウェア	情報素子に関すること	半導体素子、集積回路の種類・特徴 など	午前	
									プロセッサアーキテクチャに関すること	命令とアドレッシング、プロセッサの性能・構造・方式・特徴 など	午前	
									メモリアーキテクチャに関すること	メモリアクセス、メモリの容量、メモリの構成・特徴 など	午前	
									補助記憶に関すること	記憶媒体、補助記憶装置の種類・特徴 など	午前	
									入出力アーキテクチャと装置に関すること	入出力インターフェイス、周辺装置・通信装置の種類・特徴 など	午前	
									コンピュータの種類と特徴に関すること	コンピュータシステムの構成・種類・特徴 など	午前	
							N/A		エンベデッドシステムに関すること	構成部品と実装、論理設計、論理回路、制御回路 など	午前	
								基本ソフトウェア	オペレーティングシステムに関すること	仮想記憶、多重プログラミング、記憶管理、OSの機能・種類・特徴 など	午前	
									ファイル管理に関すること	ファイル編成、アクセス手法、排他制御、リカバリ処理 など	午前	
								システムの構成と方式	システムの構成技術に関すること	クライアントサーバシステム、システムの構成方式・処理形態 など	午前	
									システムの性能に関すること	システムの性能計算・性能設計・性能指標・性能評価、待ち行列理論 など	午前	
									システムの信頼性・経済性に関すること	システムの信頼性計算・信頼性設計・信頼性指標・信頼性評価・経済性 など	午前	
								システム応用	ネットワーク応用に関すること	WWW、インターネット、イントラネット、エクストラネット、モバイル通信、衛星通信システム など	午前	
									データベース応用に関すること	データウェアハウス、データマイニング、データマート など	午前	
								データ資源管理に関すること	IRDS、メタデータ、リポジトリ など	午前		
						N/A		マルチメディアシステムに関すること	AI、パターン処理、AR/VR/CG、エージェント、メディア応用 など	午前		
システムの開発と運用に関する知識						N/A	システムの開発と運用	システムの開発	言語に関すること	プログラミング構造、データ型、言語処理系、構文解析、言語の種類・特徴 など	午前	
									ソフトウェアパッケージに関すること	表計算ソフト、グループウェア、ミドルウェアなど	午前	
									開発環境に関すること	開発ツール、EUC・EUD など	午前	
									開発手法に関すること	プロセスモデル、ソフトウェア開発手法 など	午前	
									要求分析・設計手法に関すること	DFD、ER図、UML、オブジェクト指向設計、プロセス中心設計、データ中心設計、モジュール設計、入出力設計、ヒューマンインターフェイス設計 など	午前	
									プログラミング、テスト、レビューに関すること	プログラミング手法、テスト手法、レビュー手法 など	午前	
									開発管理に関すること	プロジェクト管理、見積もり手法、品質計画・管理・評価、工程管理、構成管理、要員計画・管理、ドキュメント管理、開発メンバーの役割と構成、システムの可監査性 など	午前	
									外部環境の活用に関すること	アウトソーシング、システムインテグレーション など	午前	
								システムの運用と保守	システムの運用に関すること	システムの障害管理、移行、オペレーション、運用ツール、資源管理、コスト管理、ユーザ管理、設備・施設 など	午前	
									システムの保守に関すること	保守の形態、保守契約 など	午前	
セキュリティと標準化に関する知識							セキュリティと標準化	セキュリティ	セキュリティに関すること	暗号化、認証、アクセス管理、セキュリティ管理、安全対策、コンピュータウイルス、プライバシー保護 など	午前	
									リスクに関すること	リスクの分析・対策・種類、内部統制 など	午前	
									ガイドラインに関すること	情報システム安全対策基準、ソフトウェア管理ガイドライン、コンピュータウイルス対策基準 など	午前	
								標準化	開発と取引の標準化に関すること	ISO9000、SLCP98 など	午前	
									情報システム基盤の標準化に関すること	OSI、IEEE、EDIFACT、OMG、CORBA、RFC など	午前	
									データの標準化に関すること	文字コード、バーコード、データフォーマット、データの圧縮 など	午前	
						N/A		標準化組織に関すること	内外の標準化組織 など	午前		
情報化と経営に関する知識						N/A *1	情報化と経営	情報戦略	経営管理に関すること	経営戦略、組織、マーケティング、行動科学、システム論 など	午前	
						N/A *1			情報化戦略に関すること	情報化構想、システム化計画、業務改善・分析・設計、企業情報システム など	午前	
						N/A *1		企業会計	財務会計に関すること	会計基準、財務諸表、連結決算、減価償却 など	午前	
						N/A *1			管理会計に関すること	損益分岐点、財務指標、原価、リース・レンタル、資金計画、資金管理、税務 など	午前	
						N/A *1		経営工学	IE・OR系に関すること	分析手法、OC曲線、管理図、最適化問題、統計的手法 など	午前	
								情報システムの活用	エンジニアリングシステムに関すること	MRP、生産管理システム、生産計画、工程計画・管理 など	午前	
									ビジネスシステムに関すること	経理・財務・人事システム、営業支援システム、OAシステム、POS、流通システム、金融システム、企業間システム など	午前	
								関連法規	情報通信に関すること	電気通信事業法 など	午前	
									知的財産権に関すること	著作権、工業所有権 など	午前	
									労働に関すること	労働者派遣法、男女雇用均等法 など	午前	
									取引に関すること	外注契約、不正競争防止法、ソフトウェア販売 など	午前	
									安全に関すること	PL法、不正アクセス防止法 など	午前	
									その他の法律・倫理に関すること	刑法、商法、電子帳簿保存法、情報公開、認定制度 など	午前	
	システム監査に関する知識						監査	監査	システム監査	システム監査基準、監査証跡、監査調査、監査技法、監査計画、監査の調査・実施・評価・報告・意義、システムの可監査性、システム監査人 など *この項目は、システム監査技術者試験のもの	午前	
業務システム改善企画の立案に関する知識							業務システム改善企画の立案に関すること			業務体系の把握、業務内容の調査・分析、業務システムの企画、業務システム改善案の事後評価、情報技術を活用した業務改革・改善、情報システムの企画・立案・実現・評価 など	午後	-
情報システム構築のためのマネジメントに関する知識							情報システム構築のためのマネジメントに関すること			機能・性能の設定、安全性・信頼性・障害対策要求の設定、運用・保守要求の設定、ソフトウェアパッケージの選定、ヒューマンインターフェイスの設計・開発、システム企画・システム設計・運用計画のレビュー、テスト基準・テスト手順の作成、テストの実施と評価、検収 など	午後	-
情報システム利用のためのマネジメントに関する知識							情報システム利用のためのマネジメントに関すること			データの活用、業務マニュアル・運用マニュアルの整備・オンライン化、システム運用、情報システムの状況把握、セキュリティ対策、知的財産権、システム利用の促進、情報化推進のための教育体制、教育メニューの立案、情報化推進のための組織・体制の立案 など	午後	-

*：上級情報処理技術者とは、情報処理技術者試験区分の基本情報技術者、初級システムアドミニストレータを除く区分とする。

[凡例]
 :必ず知っておく必要のある知識 :基本的な概念レベルを知っておく必要のある知識 N/A *1:経営の前提知識でカバー N/A:
 適用対象外